

コマツ

2018年度 決算説明会

2019年4月26日(金)

コマツ出席者

代表取締役社長(兼)CEO

執行役員CFO

執行役員経営管理部長

小川 啓之

堀越 健

今吉 琢也

I. 2018年度 決算の概要 <P3-P13>

- P4-5 : 2018年度の概況
- P6-8 : <建設機械・車両> 2018年度の状況、KMC*の概況
- P9 : <リテールファイナンス> 2018年度の状況
- P10 : <産業機械他> 2018年度の状況
- P11 : 連結貸借対照表
- P12-13 : 前中期経営計画の振返り

II. 2019年度の業績見通し <P14-P31>

- P15-16 : 2019年度の見通し(概要・セグメント売上高・利益)
- P17-18 : <建設機械・車両> 売上高とセグメント利益の見通し
- P19 : <リテールファイナンス> 資産と収益の見通し
- P20 : <産業機械他> 売上高とセグメント利益の見通し
- P21-26 : <建設機械・車両> 主要7建機需要推移と見通し(全体及び地域別)
- P27-28 : <建設機械・車両> 鉱山機械の需要・売上高の見通し
- P29 : <建設機械・車両> 部品の売上高の見通し
- P30 : 設備投資・減価償却費・研究開発費・固定費の見通し

III. 中期経営計画 <P32-P44>

参考資料 <P45-P55>

- P46-50 : 四半期毎の状況
- P51-52 : BBレシオ〔受注／売上指数(6ヶ月)〕
- P53-55 : 2018年度第4四半期(1月-3月)の状況

* KMCは、Komatsu Mining Corp. (旧ジョイ・グローバル社) の略称。

I. 2018年度 決算の概要

損益計算書の組替表示について

2018年度から米国の新年金会計基準(※)を適用したことにより、損益計算書において、勤務費用以外の退職給付費用を「その他の収益(費用)」に計上しています(従来はセグメント利益に計上)。これに伴い2017年度の数値も遡及して組替表示しています。内容は下表の通りです。

※会計基準アップデート2017-07「期間年金費用及び期間退職後給付費用の表示の改善」

新年金会計基準適用による組替え

(金額単位：億円)	2017年 4-6月	2017年 7-9月	2017年 10-12月	2018年 1-3月	2017年度 年間
従来コマツ	1	1	1	1	4
KMC	▲8	▲8	▲8	▲9	▲33
建設機械・車両	▲7	▲7	▲7	▲8	▲29
リテールファイナンス	0	0	0	0	0
産業機械他	0	▲0	0	▲1	▲1
セグメント利益	▲7	▲7	▲7	▲9	▲30
営業利益	▲7	▲7	▲7	▲9	▲30
その他収益(▲費用)	7	7	7	9	30
税引前純利益	-	-	-	-	-

- ・連結売上高は前年比+9.0%増収の2兆7,252億円。
- ・営業利益は前年比+48.2%増益の3,978億円。売上高営業利益率は同+3.9ポイント増の14.6%。
- ・純利益は前年比+30.6%増益の2,564億円。

2017年度の利益は組替表示しています(詳細は3ページを参照)。

金額単位：億円	2017年度			2018年度 10月公表値	2018年度			前年比(C-A)	
	(A) ¥111.2/USD ¥129.6/EUR ¥16.8/RMB	従来コマツ *2	KMC	(B) ¥107.4/USD ¥126.4/EUR ¥16.3/RMB	(C) ¥110.6/USD ¥128.5/EUR ¥16.5/RMB	従来コマツ *2	KMC	増減	増減率
連結売上高	25,011	21,832	3,178	26,620	27,252	23,526	3,725	+2,241	+9.0%
セグメント利益	2,998	3,156	*3 ▲157	*3 3,840	3,993	3,565	*3 428	+994	+33.2%
その他の営業収益(▲費用)	▲313	▲313	▲0	▲30	▲15	▲16	0	+298	-
営業利益(▲損失)	2,685	2,842	*3 ▲157	*3 3,810	3,978	3,548	*3 429	+1,293	+48.2%
売上高営業利益率(▲損失率)	10.7%	13.0%	▲4.9%	14.3%	14.6%	15.1%	11.5%	+3.9ポイント	-
その他の収益(▲費用)	233			▲190	▲203			▲436	-
税引前純利益	2,918			3,620	3,774			+856	+29.4%
当社株主に帰属する当期純利益	1,964			2,400	2,564			+600	+30.6%
ROE	12.1%			14.1%	14.7%			+2.6ポイント	
ネットD/Eレシオ	0.40			-	0.43			+0.03ポイント	
1株当たり配当金(円)	84円			102円	110円			+26円	
連結配当性向	40.3%			40.1%	40.5%				

*1 PPAはPurchase Price Allocation(パーチェス・プライス・アロケーション)の略。資産・負債を公正価値評価/配分する手続き。

*2 KMCを除いたコマツの従来ベースの業績を示している。

*3 KMCのセグメント利益および営業利益には右記の一時費用の影響が含まれている。

	2017年度	2018年度(10月公表値)	2018年度
PPAによる償却費 *1	▲402億円	▲79億円	▲81億円
統合費用ほか	▲75億円	▲34億円	▲29億円
合計	▲478億円	▲113億円	▲111億円

- ・建設機械・車両部門の売上高は+8.7%増収の2兆4,789億円。セグメント利益は+33.8%増益の3,653億円。セグメント利益率は+2.7ポイント改善し、14.7%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は+5.4%増収の635億円。セグメント利益は+35.0%増益の175億円。
- ・産業機械他部門の売上高は+9.6%増収の2,032億円。セグメント利益は+30.0%増益の186億円。

2017年度の利益は組替表示しています(詳細は3ページを参照)。

□ : 利益率

() : 外部顧客向け売上高

金額単位：億円	2017年度			2018年 10月公表値	2018年度			前年比(C-A)	
	(A)	従来コマツ	KMC		(B)	(C)	従来コマツ	KMC	増減
売上高	25,011	21,832	3,178	26,620	27,252	23,526	3,725	+2,241	+9.0%
建設機械・車両	22,809 (22,673)	19,631 (19,494)	3,178 (3,178)	24,150 (24,030)	24,789 (24,666)	21,063 (20,940)	3,725 (3,725)	+1,980 (+1,993)	+8.7% (+8.8%)
リテールファイナンス	603 (496)	603 (496)	-	580 (530)	635 (573)	635 (573)	-	+32 (+77)	+5.4% (+15.5%)
産業機械他	1,854 (1,841)	1,854 (1,841)	-	2,080 (2,060)	2,032 (2,012)	2,032 (2,012)	-	+178 (+171)	+9.6% (+9.3%)
消去	▲255	▲255	-	▲190	▲205	▲205	-	+50	-
セグメント利益 (▲損失)	12.0% 2,998	14.5% 3,156	▲4.9% ▲157	14.4% 3,840	14.7% 3,993	15.2% 3,565	11.5% 428	+994	+33.2%
建設機械・車両	12.0% 2,730	14.7% 2,887	▲4.9% ▲157	14.6% 3,530	14.7% 3,653	15.3% 3,224	11.5% 428	+923	+33.8%
リテールファイナンス	21.5% 129	21.5% 129	-	27.6% 160	27.5% 175	27.5% 175	-	+45	+35.0%
産業機械他	7.7% 143	7.7% 143	-	8.7% 180	9.2% 186	9.2% 186	-	+43	+30.0%
消去または全社	▲4	▲4	-	▲30	▲20	▲20	-	▲16	-

各セグメントの状況：

■ 建設機械・車両

北米・アジア・オセアニアなどでの売上増加により増収。物量の増加に加え、KMCの一時費用が減少したことで全体として増益。

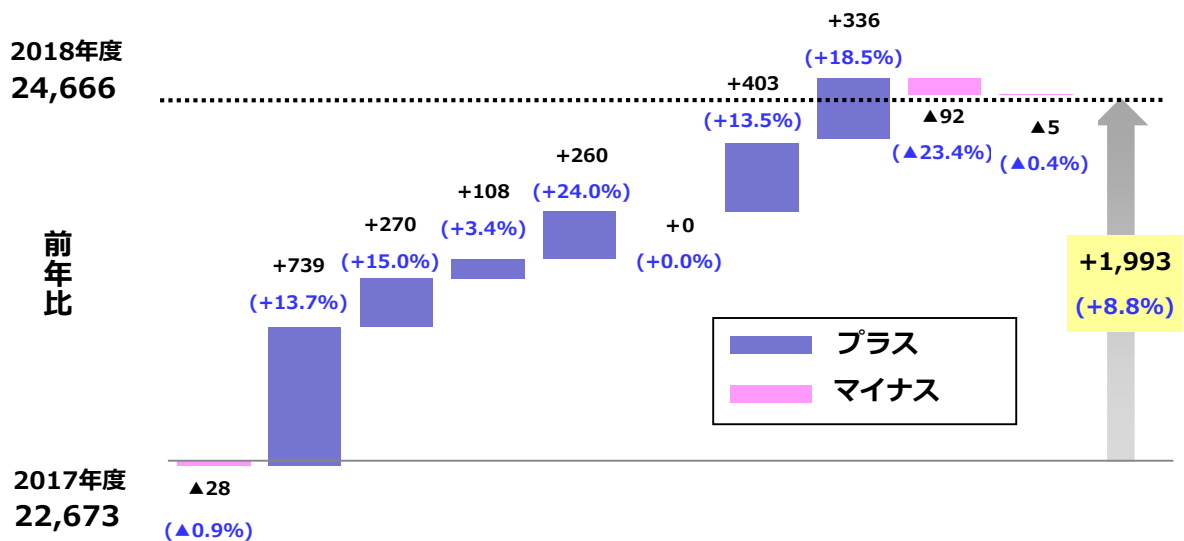
■ リテールファイナンス

前年にチリにおいてリース契約の中途解約による中古車売上があったものの、北米での資産増加等により増収。2016年度に中国で計上した貸倒引当金の戻り益および北米での販売増加により増益。

■ 産業機械他

自動車業界向けの鍛圧機械及び工作機械の販売増加に加え、半導体市場でのエキシマレーザー関連製品の販売増加等により増収増益。

- ・ 外部顧客向け売上高は前年比+8.8%増収の2兆4,666億円。
- ・ 北米・アジア・オセアニアなどで売上高が大きく伸長。
- ・ 戦略市場の比率は54%。

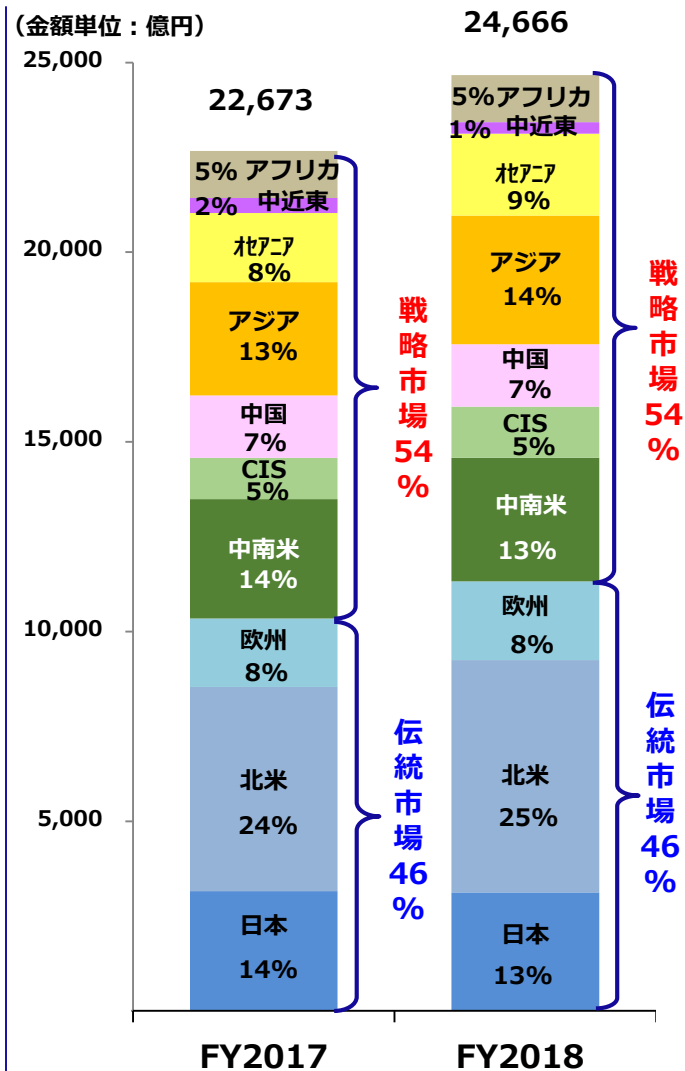


(億円)	日本	北米	欧州	中南米	CIS	中国	アジア	オセアニア	中近東	アフリカ	合計
従来コマツ	3,156	4,032	1,664	2,413	1,027	1,497	2,946	1,408	393	953	19,494
KMC	0	1,349	140	733	57	150	39	411	2	293	3,178
2017年度 (A)	3,156	5,382	1,804	3,147	1,085	1,647	2,986	1,819	395	1,246	22,673
従来コマツ	3,127	4,435	1,916	2,509	1,231	1,493	3,297	1,698	297	934	20,940
KMC	0	1,687	159	746	115	154	92	457	5	306	3,725
2018年度 (B)	3,127	6,122	2,075	3,256	1,346	1,648	3,390	2,156	302	1,241	24,666
増減 B-A	▲28	+739	+270	+108	+260	+0	+403	+336	▲92	▲5	+1,993

※ 為替影響を除くベースでプラスの地域

伝統市場: 日本, 北米, 欧州, 中南米, CIS, 中国, アジア, オセアニア, 中近東, アフリカ

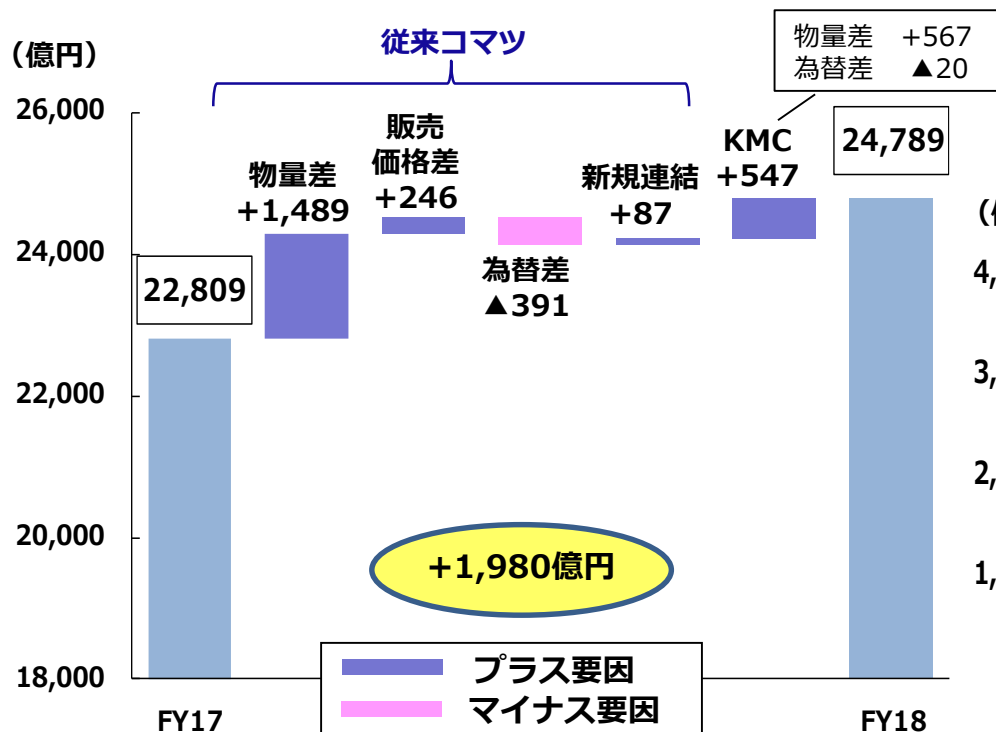
戦略市場: 北米, 欧州, 中南米, CIS, 中国, アジア, オセアニア, 中近東, アフリカ



※ 為替影響を除くベースでプラスの地域

- ・売上高は物量の増加に加え、販売価格差等により、前年比+1,980億円の増収。
- ・セグメント利益は物量の増加、KMCの一時費用の減少等により+923億円の増益。
- ・売上高セグメント利益率は前年比+2.7ポイント増の14.7%。

売上高
FY2017 vs. FY2018

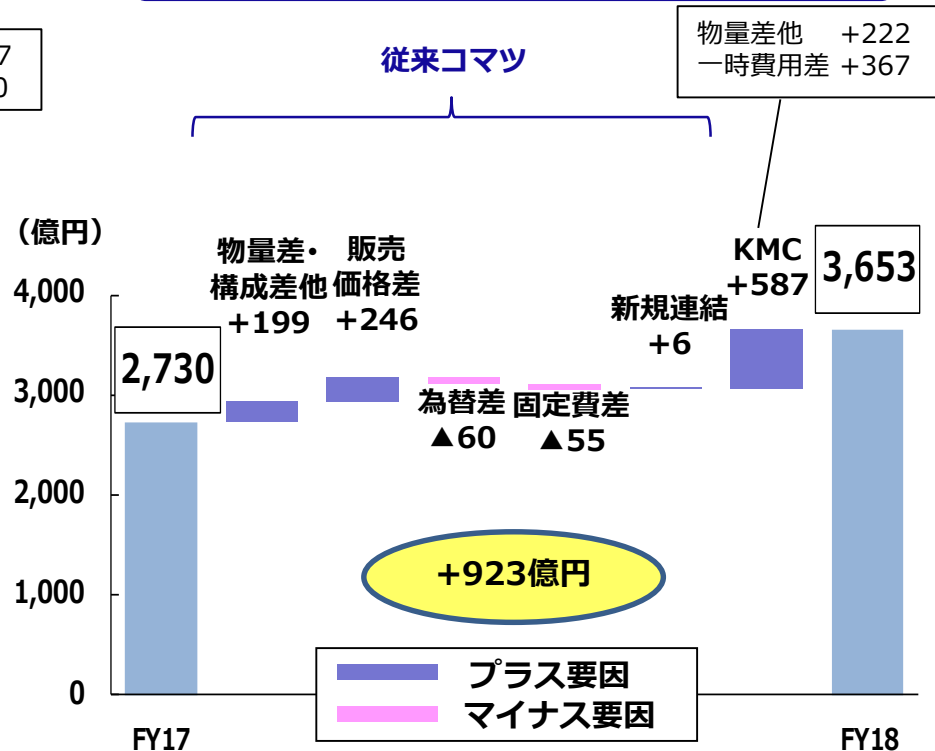


¥111.2/USD
¥129.6/EUR
¥16.8/RMB

¥110.6/USD
¥128.5/EUR
¥16.5/RMB

2017年度の利益は組替表示しています(詳細は3ページを参照)。

セグメント利益
FY2017 vs. FY2018



12.0%

売上高セグメント利益率

14.7%

- ・売上高は、前年比+17.2%増の3,725億円。
- ・一時費用除く営業利益は540億円、一時費用▲111億円を含む営業利益は429億円。

2017年度の利益は組替表示しています(詳細は3ページを参照)。

(金額単位：億円)	2017年度 (¥111.2/USD)		2018年度 (¥110.6/USD)		前年比	
					増減	増減率
売上高	3,178	3,725	+547	+17.2%		
本体	611	775	+164	+27.0%		
部品	1,134	1,302	+169	+14.9%		
サービス等	1,433	1,647	+213	+14.9%		
営業利益 <一時費用除く>	10.1% 321	14.5% 540	+220	+68.8%		
一時費用 (マイナスで表記)	▲478	▲111	+366	-		
PPAによる償却費 ※1	※2 ▲402	▲81	+320	-		
統合費用ほか	▲75	▲29	+45	-		
営業利益 (▲損失) <一時費用含む>	▲4.9% ▲157	11.5% 429	+587	-		

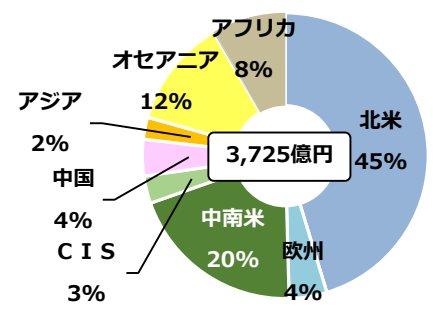
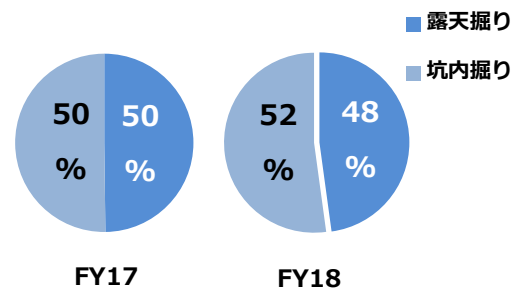
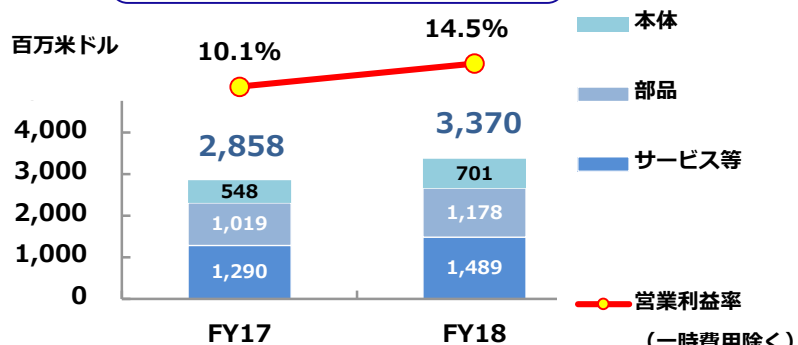
※1：PPAは、Purchase Price Allocation(パーチェス・プライス・アロケーション)の略で
資産・負債を公正価値評価/配分する手続き

※2：うち棚卸資産に係るPPAによる償却費 ▲258億円

セグメント別売上高

FY18地域別売上高(外部顧客向け)

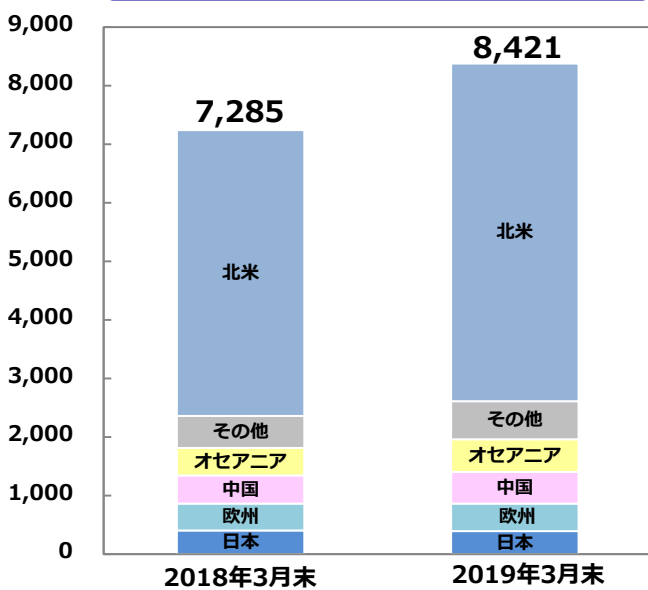
売上高・営業利益率の推移
(米ドルベース)



[KMCシナジー効果(概算)] ※ KMC/コマツ 2社合計
 ・ FY18実績 約70百万USD
 ・ <想定シナジー (2021年度目標)> KMC売上高の約10%、に向けて順調に進捗

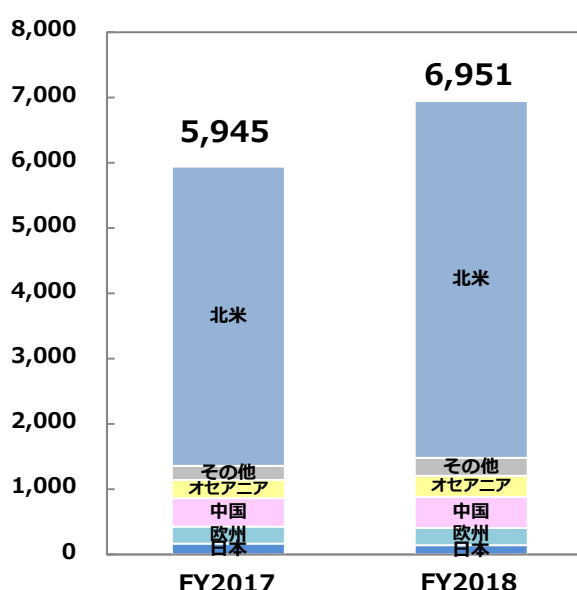
- ・資産および新規取組高は、主に北米において増加。
- ・売上高は前年にチリにおいて、リース契約の中途解約による中古車売上があったものの、北米での資産増加等により増収。
- ・セグメント利益は、主に中国での貸倒引当金の戻り益と北米での販売増加等により増益。

資産
2018年3月末 vs. 2019年3月末



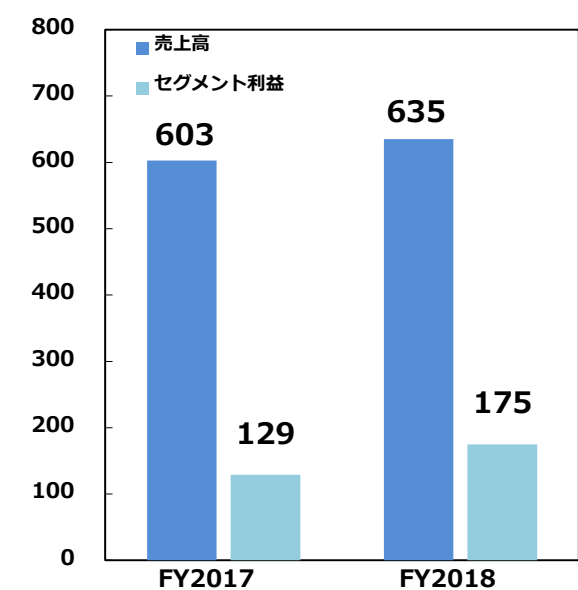
2018年3月末: ¥106.3/USD, ¥131.0/EUR, ¥17.0/RMB
 2019年3月末: ¥111.1/USD, ¥124.7/EUR, ¥16.6/RMB

新規取組高
FY2017 vs. FY2018



FY2017: ¥111.2/USD, ¥129.6/EUR, ¥16.8/RMB
 FY2018: ¥110.6/USD, ¥128.5/EUR, ¥16.5/RMB

収益
FY2017 vs. FY2018



FY2017: ¥111.2/USD, ¥129.6/EUR, ¥16.8/RMB
 FY2018: ¥110.6/USD, ¥128.5/EUR, ¥16.5/RMB

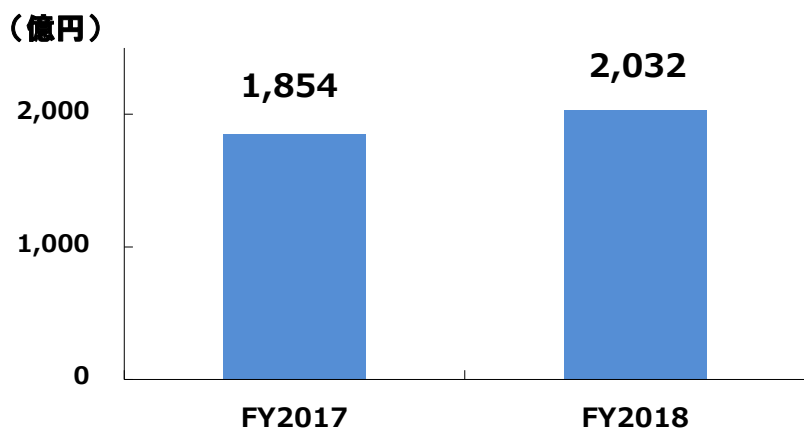
金額単位: 億円	2018/3E	2019/3E	2018/3E比
借入金	5,460	6,380	+920
ネットベースの借入金	5,426	6,340	+914
ネットD/Eレシオ	3.50	3.64	+0.14ポイント

	FY2017	FY2018	前年比
ROA	1.9%	2.2%	+0.3%

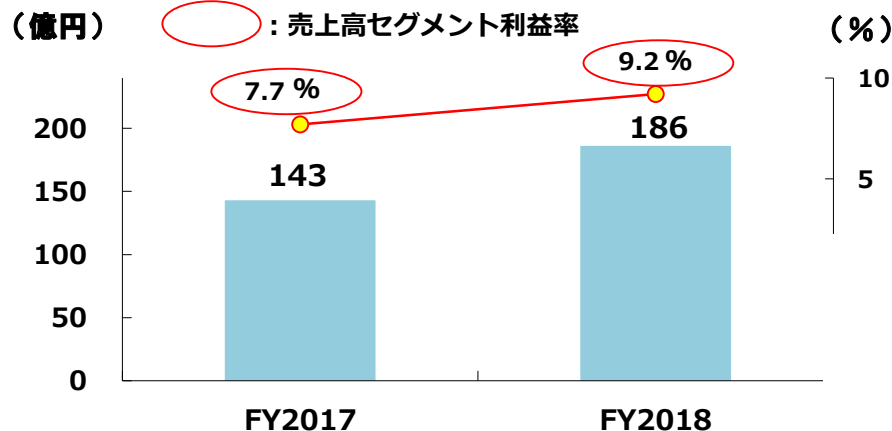
- ・売上高は自動車業界向けの鍛圧機械及び工作機械の販売増加に加え、半導体市場でのエキシマレーザー関連製品の販売増加等により前年比+9.6%増収の2,032億円。
- ・売上高セグメント利益率は9.2%。

2017年度の利益は組替表示しています(詳細は3ページを参照)。

売上高
FY2017 vs. FY2018



セグメント利益
FY2017 vs. FY2018



売上高の内訳

(億円)	FY2017	FY2018	前年比	
			増減	増減率
コマツ産機	514	574	+59	+11.6%
コマツNTC	629	679	+49	+7.8%
ギガフォトン	371	405	+33	+9.1%
その他	337	373	+35	+10.4%
合計	1,854	2,032	+178	+9.6%

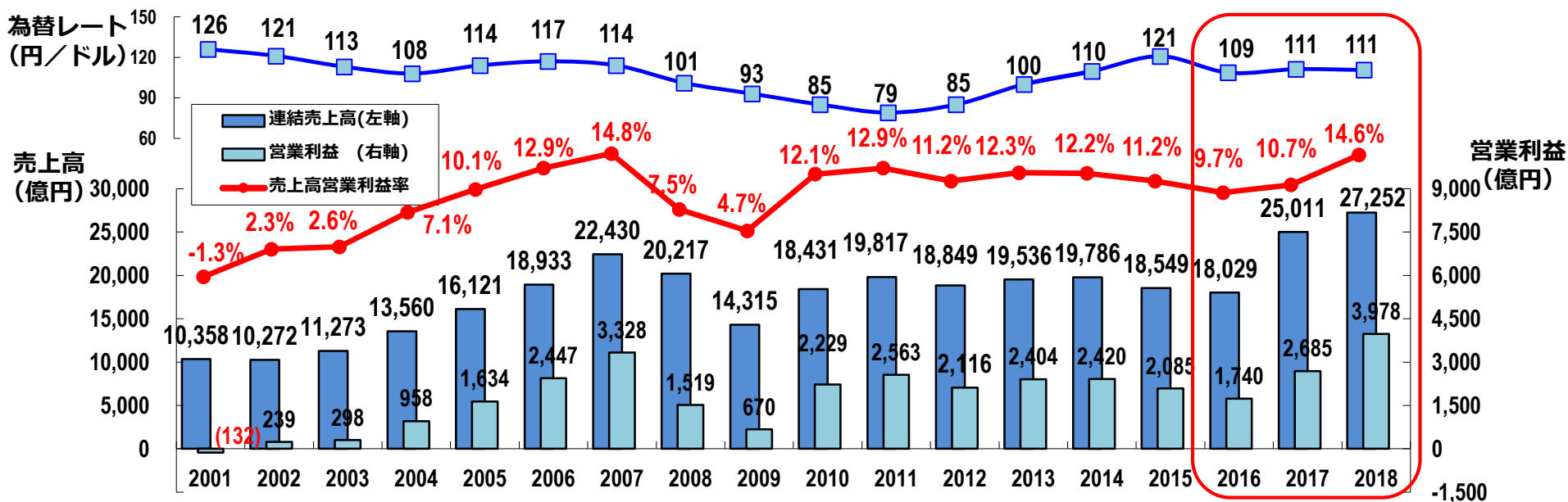
- ・総資産は主に棚卸資産が増加したことに伴い、前年度末比で+2,656億円の増加。
- ・株主資本比率は前年度末比+0.5ポイント増の49.9%。

(金額単位：億円) ○：ネットD/Eレシオ	2018年3月末 ¥106.3/USD ¥131.0/EUR ¥ 17.0/RMB	2019年3月末 ¥111.1/USD ¥124.7/EUR ¥ 16.6/RMB	増減
現金・預金（含む定期預金） [a]	1,468	1,508	+39
受取手形・売掛金（含む長期売上債権）	11,550	12,585	+1,034
棚卸資産	7,302	8,375	+1,072
有形固定資産	7,405	7,764	+358
その他資産	5,997	6,148	+151
資産合計	33,725	36,382	+2,656
支払手形・買掛金	3,035	2,669	▲366
借入金・社債 [b]	8,105	9,307	+1,201
その他負債	5,147	5,377	+229
負債合計	16,289	17,353	+1,064
（株主資本比率）	(49.4%)	(49.9%)	(+0.5ポイント)
株主資本	16,645	18,155	+1,510
非支配持分	790	872	+82
負債及び純資産合計	33,725	36,382	+2,656
○ 社ベースの借入金・社債 [b-a]	○ 0.40 6,637	○ 0.43 7,798	+1,161
○ ネットD/Eレシオ（リテールファイナンス会社を除いた場合）	○ 0.08	○ 0.09	

3つの経営戦略	進捗状況と新中期経営計画に向けて	
1. イノベーションによる成長戦略	進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ スマートコンストラクションの協業や機能の拡充、及び現場導入数の進展（国内累計7,500超） ・ ICT建機の機種拡大 ・ 建設生産プロセス全体をつなぐ新プラットフォーム「LANDLOG」の共同企画・運用 ・ 無人ダンプトラック運行システムの総稼働台数130台超の達成 ・ ギガフォトンのEUV*光源は、ロードマップの変更で開発フェーズが継続中
	新中期経営計画に向けて	イノベーション戦略の進化と拡大 →「イノベーションによる価値創造」
2. 既存事業の成長戦略	進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ KMC（旧ジョイ・グローバル社）の買収、及び事業統合 ・ 最新の排出ガス規制に対応した商品の開発・導入 ・ 部品事業の販売増（契約ビジネス、買収等） ・ アジア、及びドバイトレーニング&デモンストレーションセンタの開設（トレーニング活動開始） ・ アジア開発センタの設立（現地商品企画の強化） ・ 林業機械事業拡大（品揃え、買収等）
	新中期経営計画に向けて	バリューチェーンの更なる改革 →「事業改革による成長戦略」
3. 土台強化のための構造改革	進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 着実なコスト改善活動の実施 ・ グローバル補給部品オペレーション改革 ・ 日本国内の販売会社3社（コマツ建機販売株式会社、コマツレンタル株式会社、コマツリフト株式会社）の合併
	新中期経営計画に向けて	ICT・IoTによる業務改革、需要変動に強い体質強化 →「成長のための構造改革」

*EUV: Extreme Ultravioletの略。EUV光源は次世代の半導体製造技術の一つです。

・中期経営計画の目標数値に対しては、リテールファイナンス事業のROAを除き、全て達成。



＜中期経営計画の経営目標達成状況＞

(※) FY2016-18の各年度の平均にて算出

	経営目標	年度	FY2018	FY2016-18
		指標	実績	実績 (※)
成長性	・ 業界水準を超える成長率を目指す。	売上高成長率 [対前年伸び率]	9.0%	15.0%
収益性	・ 業界トップレベルの営業利益率を目指す。	営業利益率	14.6%	11.7%
効率性	・ ROEは10%レベルを目指す。	ROE	14.7%	11.4%
株主還元	・ 成長への投資を主体としながら、株主還元（自社株買いを含む）とのバランスをとる。 ・ 連結配当性向を40%以上とし、60%を超えない限り減配はしない。	連結配当性向	40.5%	43.0%
健全性	・ 業界トップレベルの財務体質を目指す。	ネットD/Eレシオ	0.43	0.34
リテールファイナンス事業	・ ROA 2.0%以上	ROA	2.2%	1.6%
	・ ネットD/Eレシオを5倍以下	ネットD/Eレシオ	3.64	3.60

Ⅱ. 2019年度の業績見通し

- ・ 連結売上高は前年比▲4.0%減収の2兆6,170億円の見通し。
- ・ 営業利益は前年比▲15.3%減益の3,370億円、売上高営業利益率は▲1.7ポイント減の12.9%の見通し。
- ・ 純利益は前年比▲16.2%減益の2,150億円の見通し。

金額単位：億円	2018年度	2019年度 (見通し)	前年比	
	¥110.6/USD ¥128.5/EUR ¥16.5/RMB	¥105.0/USD ¥119.0/EUR ¥15.6/RMB	増減	増減率
連結売上高	27,252	26,170	▲1,082	▲4.0%
セグメント利益	3,993	3,420	▲573	▲14.4%
その他の営業収益(▲費用)	▲15	▲51	▲35	-
営業利益	3,978	3,370	▲608	▲15.3%
売上高営業利益率	14.6%	12.9%	▲1.7ポイント	-
その他の収益(▲費用)	▲203	▲200	+3	-
税引前純利益	3,774	3,170	▲604	▲16.0%
当社株主に帰属する当期純利益	2,564	2,150	▲414	▲16.2%
ROE	14.7%	11.8%	▲2.9ポイント	
1株当たり配当金(円)	110円	110円	±0円	
連結配当性向	40.5%	48.3%		

- ・建設機械・車両部門の売上高は前年比▲4.7%減収の2兆3,620億円。セグメント利益は前年比▲14.9%減益の3,110億円。セグメント利益率は▲1.5ポイント悪化し 13.2%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は前年比+10.1%増収の700億円。セグメント利益は前年比▲25.7%減益の130億円。
- ・産業機械他部門の売上高は前年比+1.9%増収の2,070億円。セグメント利益は前年比+12.7%増益の210億円。

□ % : 利益率 (): 外部顧客向け売上高

金額単位：億円	2018年度	2019年度 (見通し)	前年比	
			増減	増減率
売上高	27,252	26,170	▲1,082	▲4.0%
建設機械・車両	(24,666) 24,789	(23,500) 23,620	(▲1,166) ▲1,169	(▲4.7%) ▲4.7%
リテールファイナンス	(573) 635	(620) 700	(+46) +65	(+8.1%) +10.1%
産業機械他	(2,012) 2,032	(2,050) 2,070	(+37) +38	(+1.9%) +1.9%
消去	▲205	▲220	▲14	-
セグメント利益	□ 14.7% 3,993	□ 13.1% 3,420	▲573	▲14.4%
建設機械・車両	□ 14.7% 3,653	□ 13.2% 3,110	▲543	▲14.9%
リテールファイナンス	□ 27.5% 175	□ 18.6% 130	▲45	▲25.7%
産業機械他	□ 9.2% 186	□ 10.1% 210	+23	+12.7%
消去または全社	▲20	▲30	▲9	-

各セグメントの状況：

■ 建設機械・車両

販売価格のアップを見込むものの、物量の減少及び為替のマイナス影響により減収。
物量の減少、為替のマイナス影響に加え、地域構成の悪化、成長のための戦略投資の実行により減益。

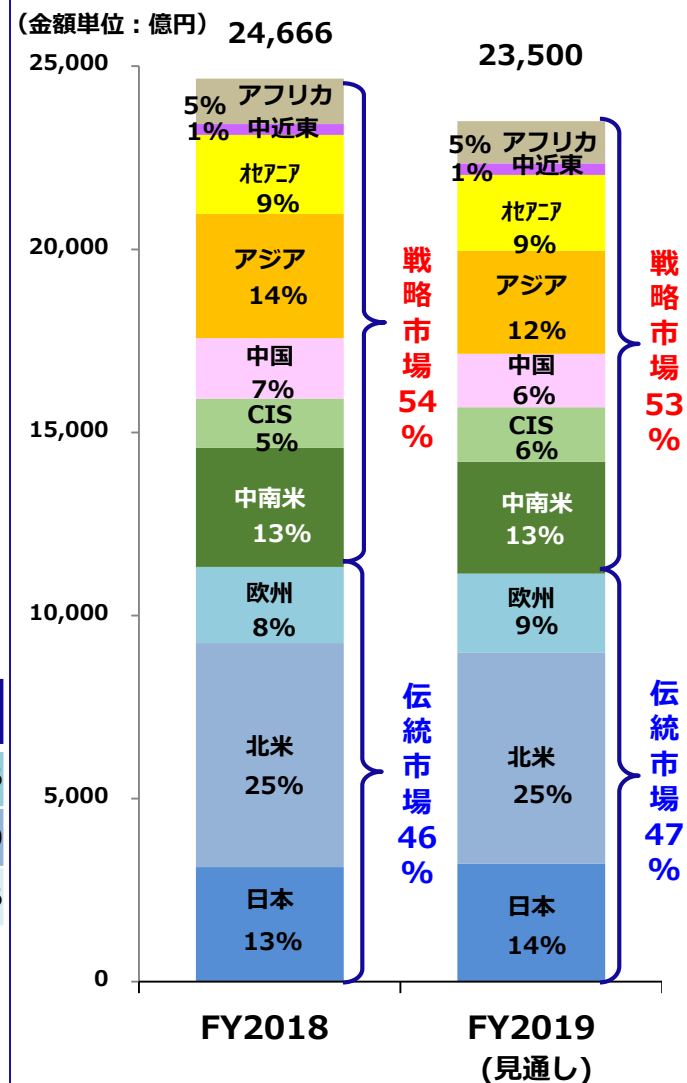
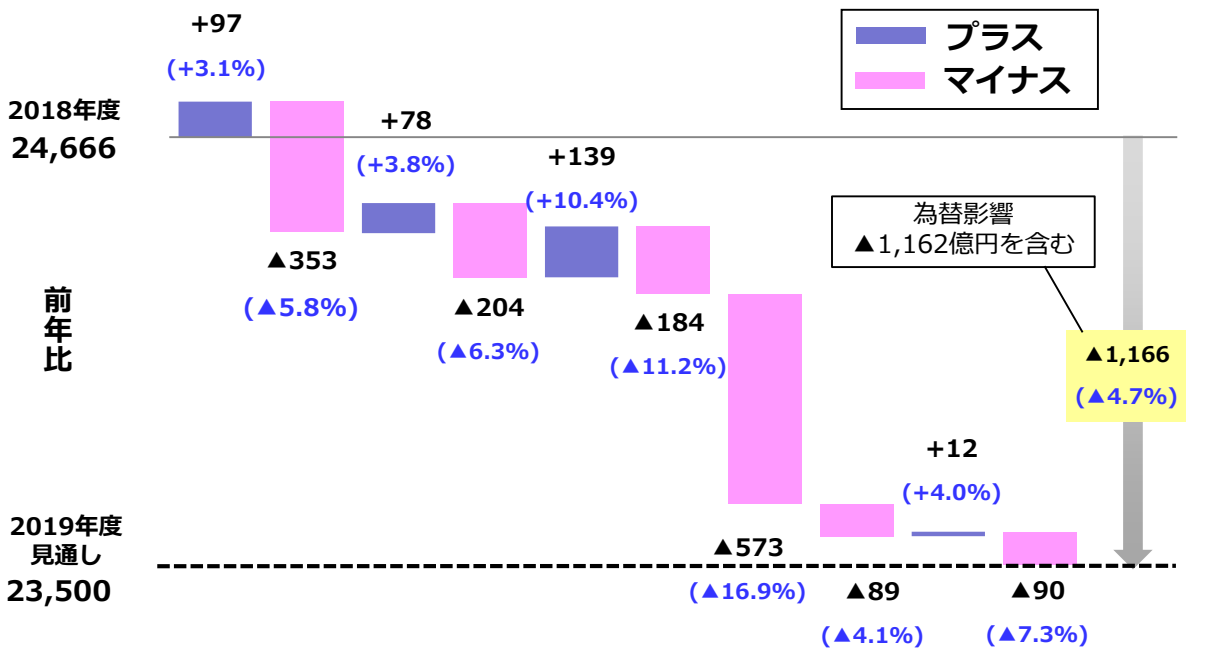
■ リテールファイナンス

売上高は、年平均資産残高の増加により増収、前年度の中国での貸倒引当金の戻り益がなくなることもあり減益。

■ 産業機械他

自動車業界向け鍛圧機械の販売伸長などに伴い増収増益。

- 外部顧客向け売上高は前年比▲4.7%減収の2兆3,500億円。
- 特にアジア・北米・中南米等における減少が大きく減収となる見通しであるが、為替影響を除くと、売上高はほぼ横ばい。



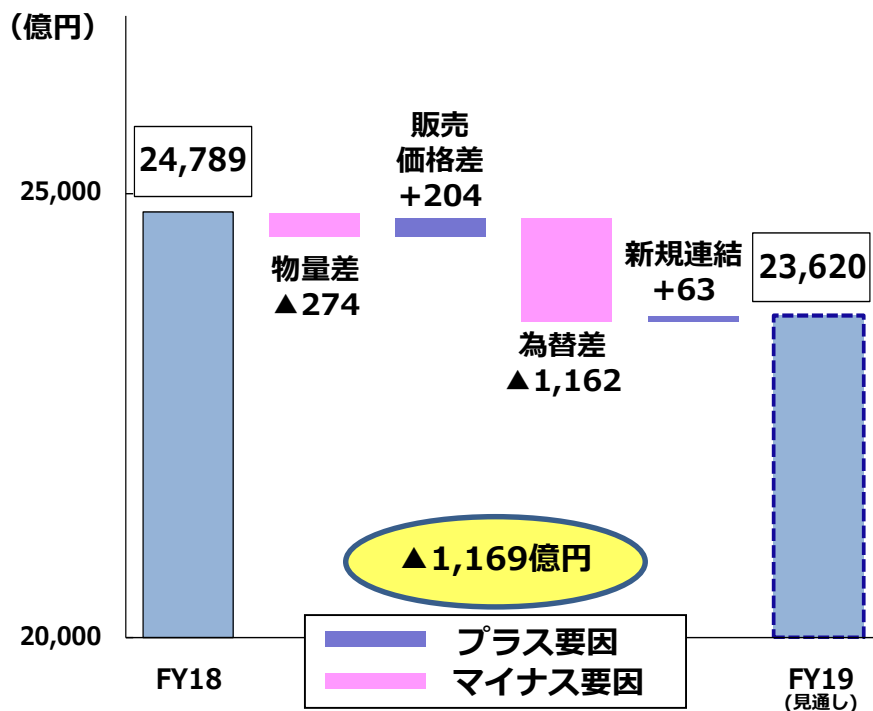
(億円)	日本	北米	欧州	中南米	CIS	中国	アジア	オセアニア	中近東	アフリカ	合計
2018年度	3,127	6,122	2,075	3,256	1,346	1,648	3,390	2,156	302	1,241	24,666
2019年度	3,225	5,769	2,154	3,052	1,486	1,464	2,817	2,067	315	1,151	23,500
増減	+97	▲353	+78	▲204	+139	▲184	▲573	▲89	+12	▲90	▲1,166
	※	※	※		※			※	※		

伝統市場 (日本, 北米, 欧州)
 戦略市場 (中南米, CIS, 中国, アジア, オセアニア, 中近東, アフリカ)

※ 為替影響を除くベースでプラスの地域

- ・売上高は販売価格の値上げを実施するものの、物量の減少及び為替のマイナス影響により、前年比▲1,169億円の減収。
- ・セグメント利益は、物量・地域構成・為替のマイナス影響に加え、成長のための戦略投資により前年比▲543億円の減益。
- ・売上高セグメント利益率は前年比▲1.5ポイント減の13.2%。

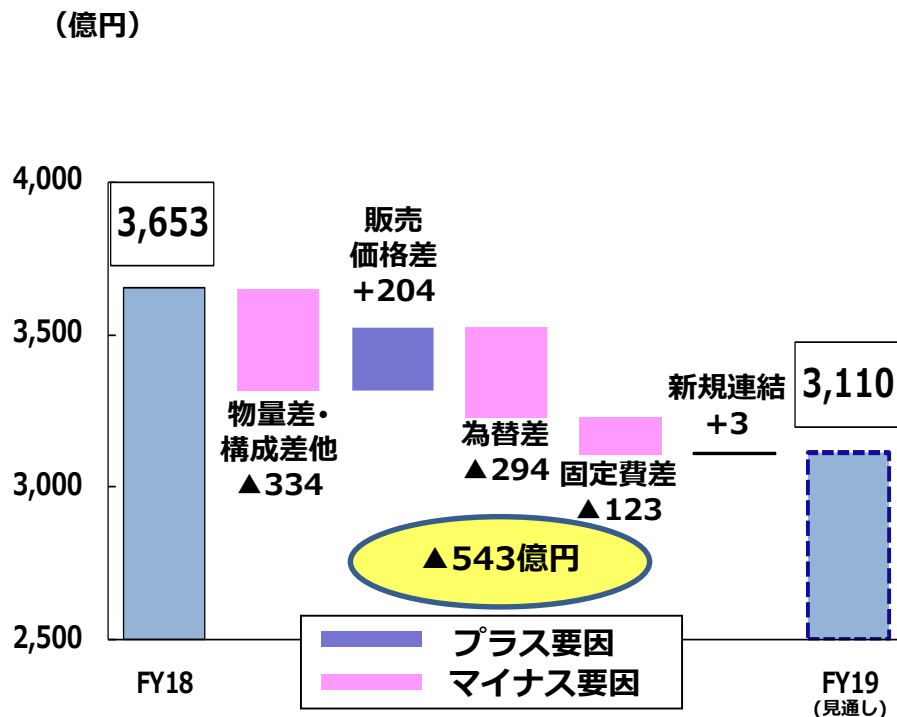
売上高
FY2018 vs. FY2019(見通し)



¥110.6/USD
¥128.5/EUR
¥16.5/RMB

¥105.0/USD
¥119.0/EUR
¥15.6/RMB

セグメント利益
FY2018 vs. FY2019(見通し)



14.7%

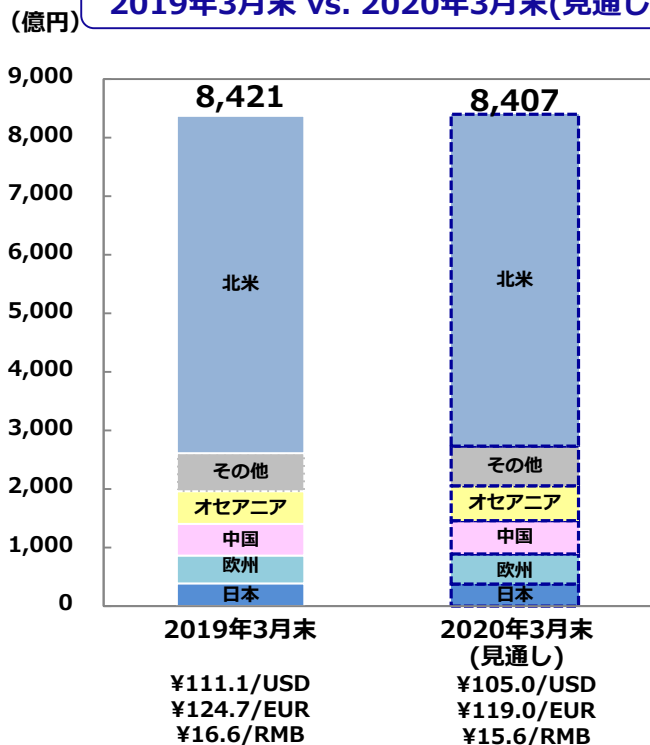
売上高セグメント利益率

13.2%

- ・資産は為替の影響により前年度末比横ばい。
- ・新規取組高は為替影響に加え、主に北米、オセアニアで前年度比減少の見通し。
- ・売上高は年平均資産残高の増加により増収。
- ・セグメント利益は中国の貸倒引当金の戻り益がなくなることもあり減益。

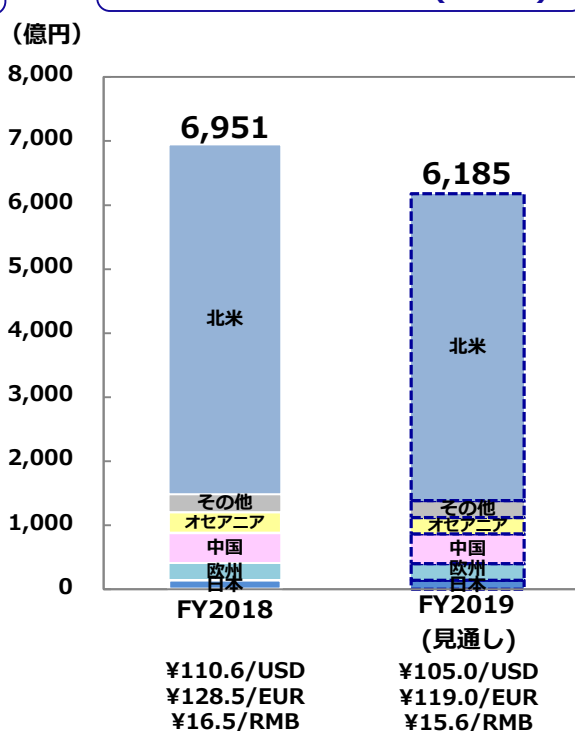
資産

2019年3月末 vs. 2020年3月末(見通し)



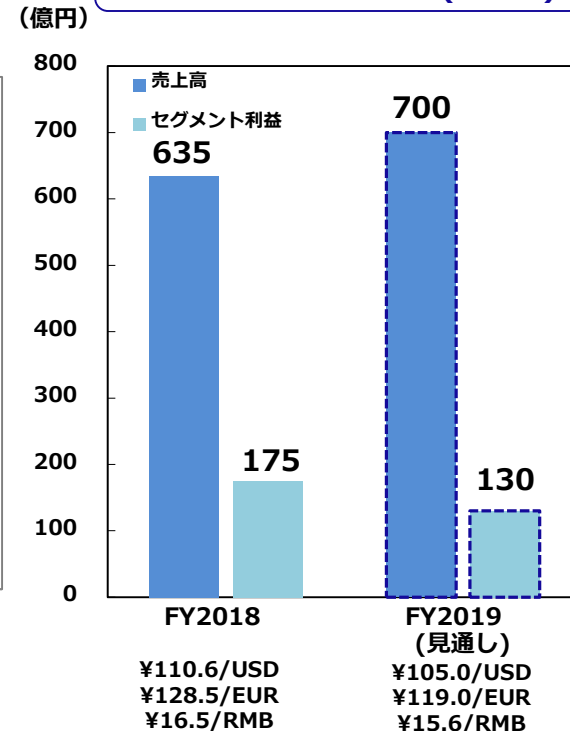
新規取組高

FY2018 vs. FY2019(見通し)



収益

FY2018 vs. FY2019(見通し)

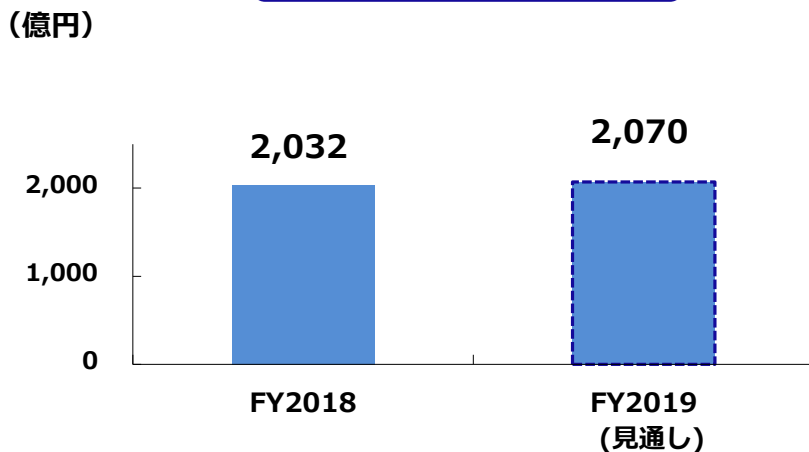


金額単位：億円	2019/3E	2020/3E (見通し)	2019/3E比
借入金	6,380	6,461	+81
ネットベースの借入金	6,340	6,381	+41
ネットD/Eレシオ	3.64	3.79	+0.15ポイント

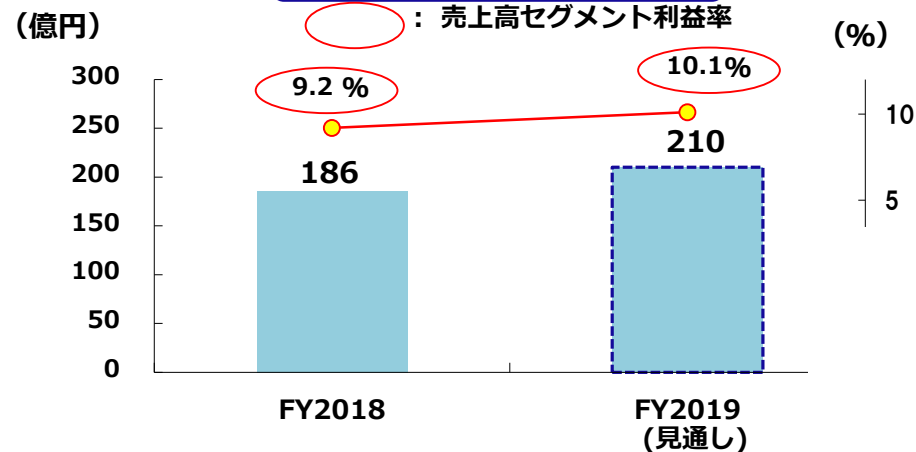
	FY2018	FY2019 (見通し)	前年比
ROA	2.2%	1.6%	▲0.6%

・売上高は前年比+1.9%増収の2,070億円、セグメント利益は前年比+23億円増益の210億円となる見通し。

売上高



セグメント利益

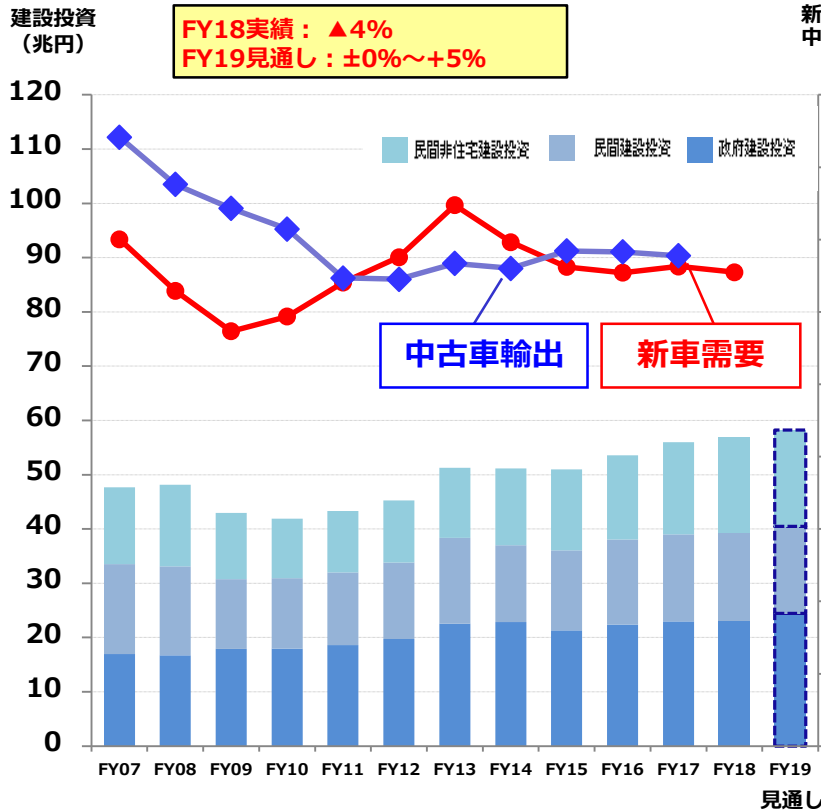


売上高の内訳

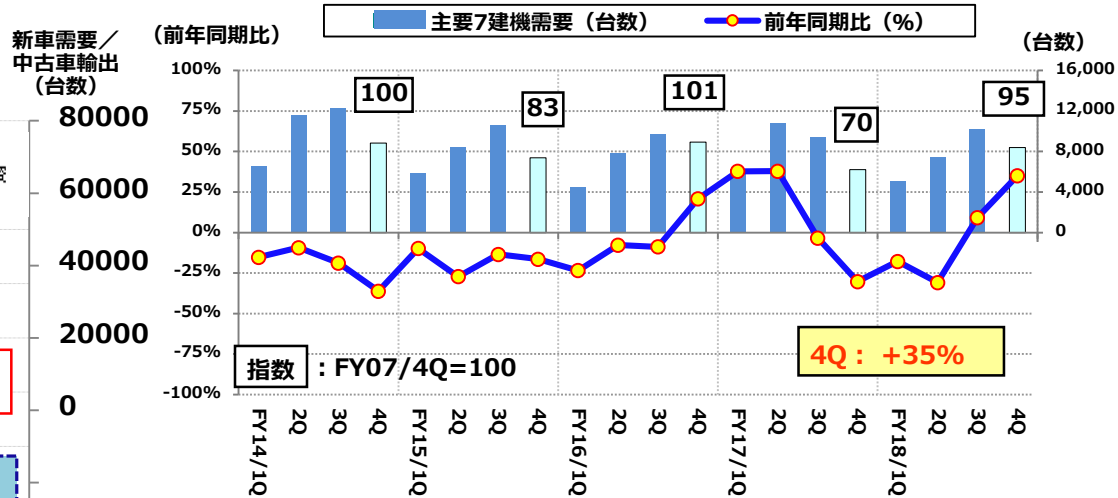
金額単位：億円	FY2018	FY2019 (見通し)	前年比	
			増減	増減率
コマツ産機	574	631	+56	+9.9%
コマツNTC	679	596	▲82	▲12.1%
ギガフォトン	405	426	+20	+5.1%
その他	373	415	+42	+11.4%
合計	2,032	2,070	+38	+1.9%

- ・ 2018年度の需要は、前年比▲4%減少。上期は国内排ガス規制（2017年9月開始）前の駆け込み需要の反動減で大幅に減少するも、下期は前年同期比でプラス。
- ・ 2019年度の需要は前年比±0%～+5%の見通し。

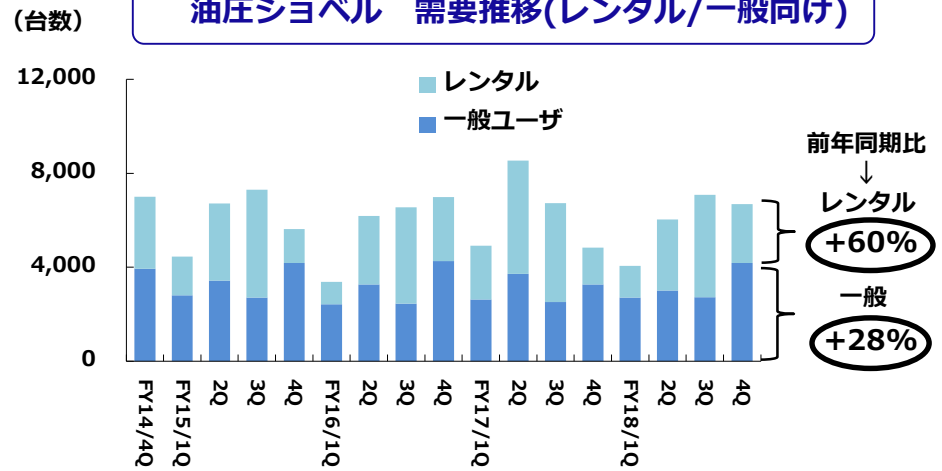
新車需要（主要7建機）と建設投資



主要7建機 四半期別需要推移



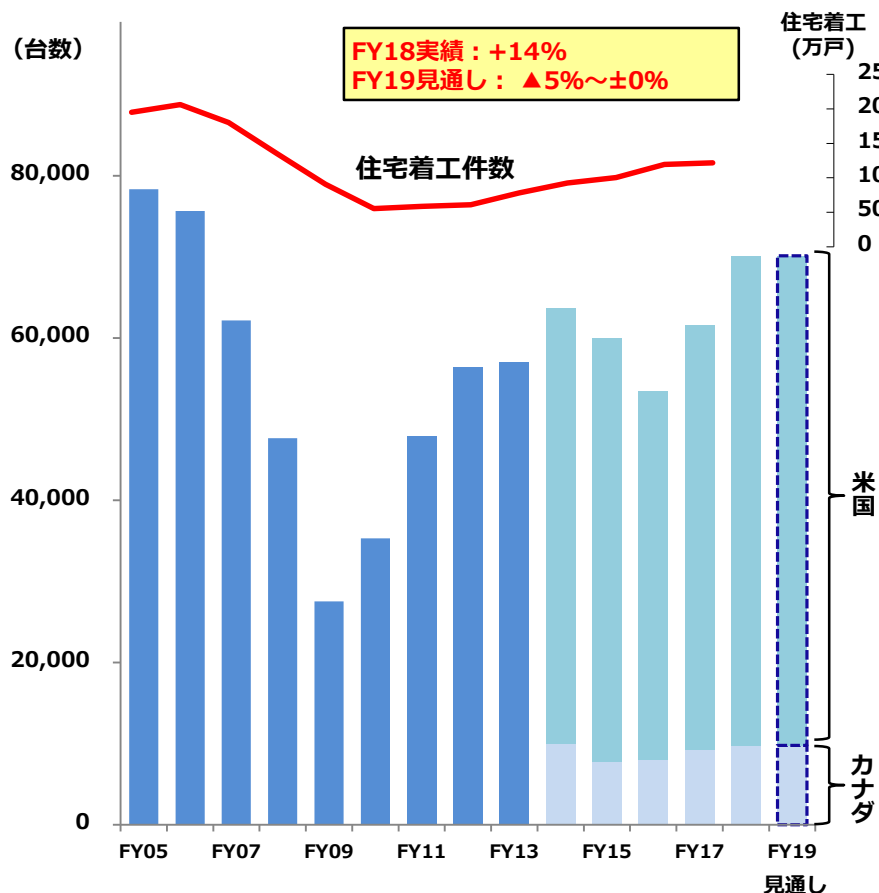
油圧ショベル 需要推移(レンタル/一般向け)



【出所】 建設投資：国土交通省／建設経済研究所
 主要7建機需要：コマツの推定
 中古車輸出货量：コマツの推定

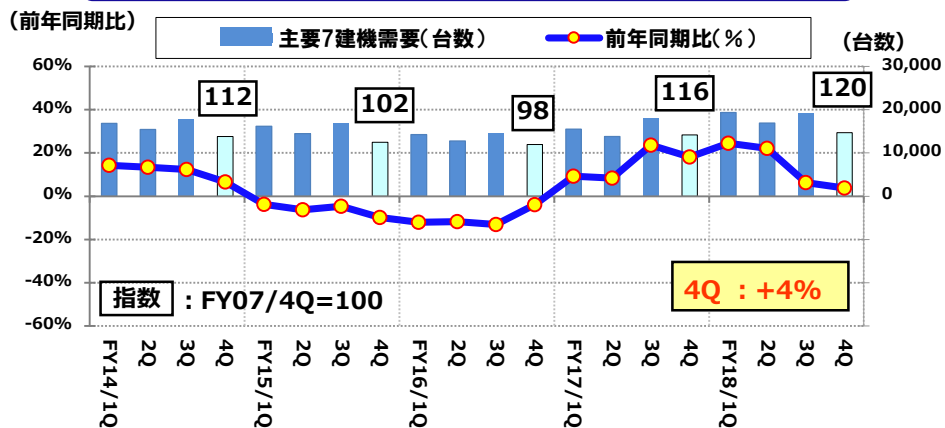
- ・ 2018年度の需要は、前年比+14%増加。
- ・ アメリカにおいて、エネルギー関連等の需要が引き続き堅調に推移。
- ・ 2019年度の需要は前年比▲5%～±0%の見通し。

主要7建機 需要推移と住宅着工件数

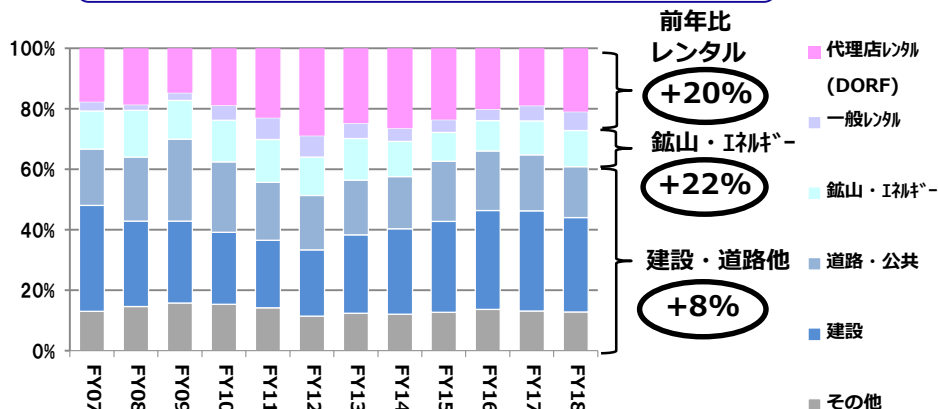


[出所] 主要7建機需要：コマツの推定

主要7建機 四半期需要推移

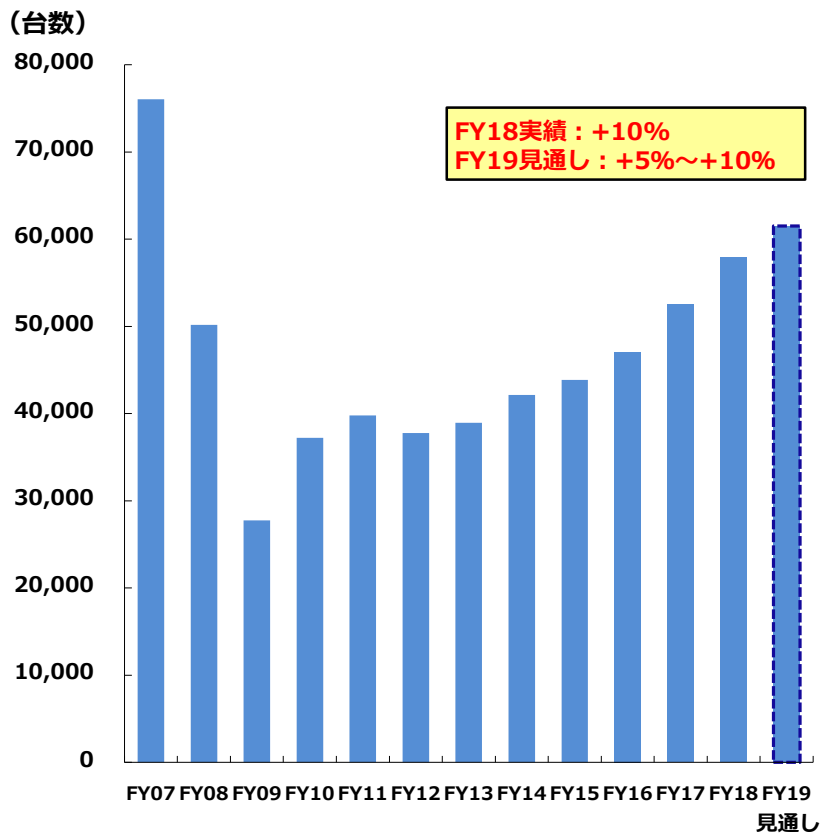


セグメント別需要構成比(台数ベース)



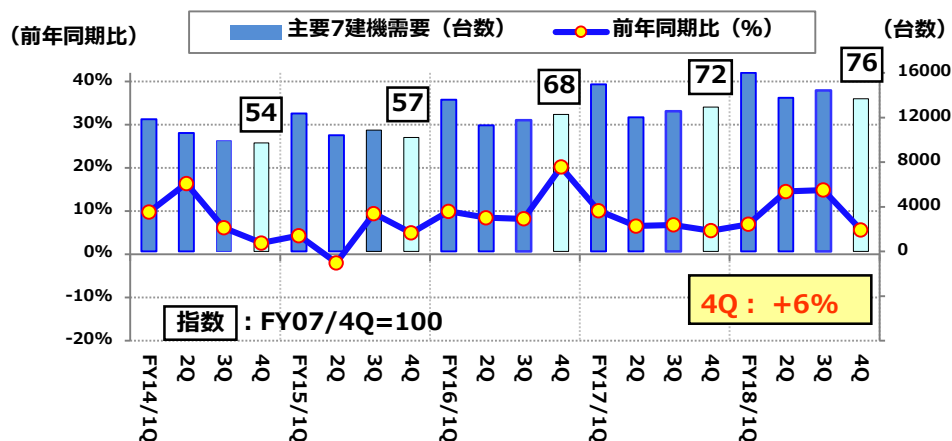
- ・ 2018年度の需要は、前年比+10%増加。
- ・ 主要市場であるドイツ・イギリス・フランスの需要がインフラ投資等により、引き続き堅調に推移。
- ・ 2019年度は前年比+5%～+10%の見通し。

主要7建機 年度別需要推移

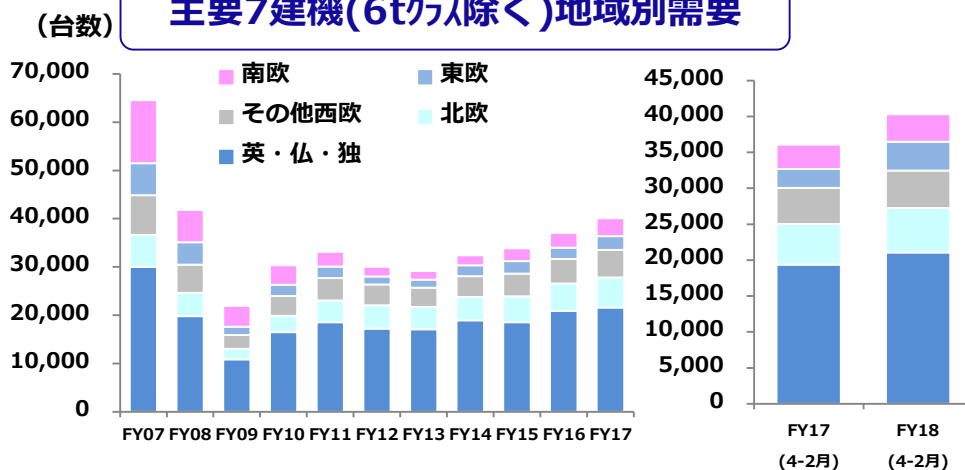


【出所】 主要7建機需要：コマツの推定

主要7建機 四半期需要推移

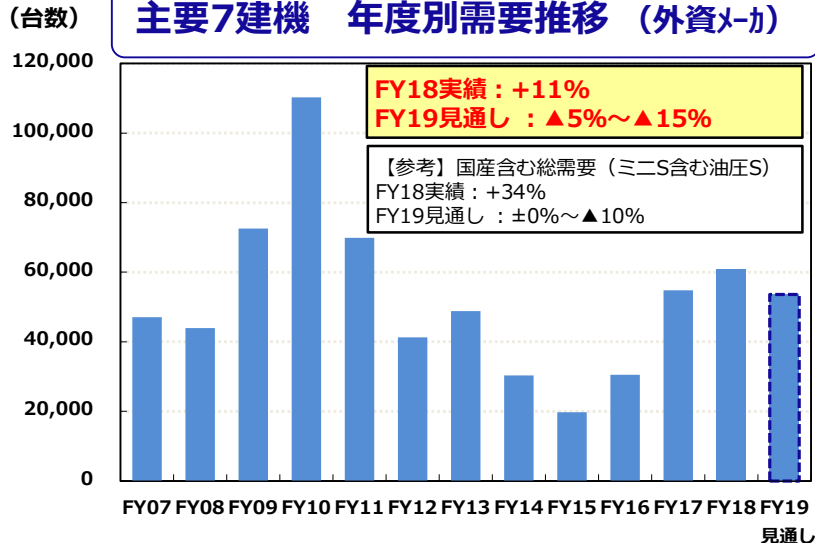


主要7建機(6クラス除く)地域別需要

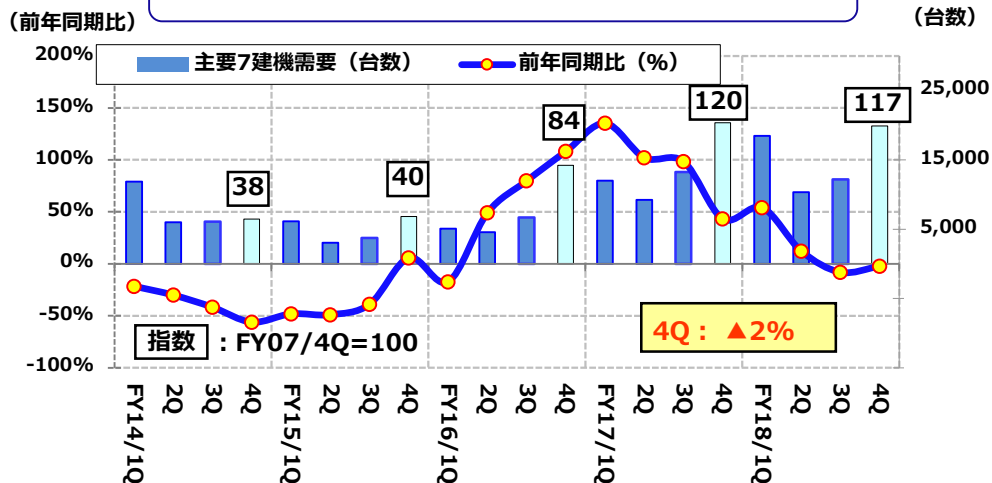


- ・ 2018年度の需要は、前年比+11%増加。
- ・ 中国経済の減速により、伸び率は大きく鈍化。
- ・ 2019年度は全体として弱含むと見ており、前年比▲5%～▲15%の見通し。

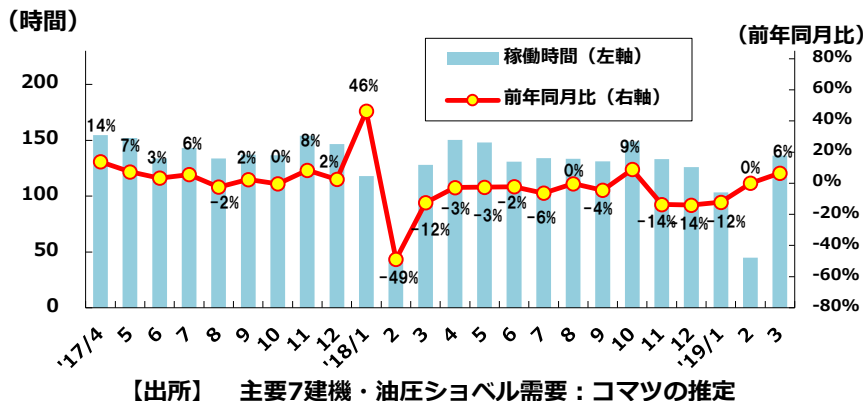
主要7建機 年度別需要推移 (外資メカ)



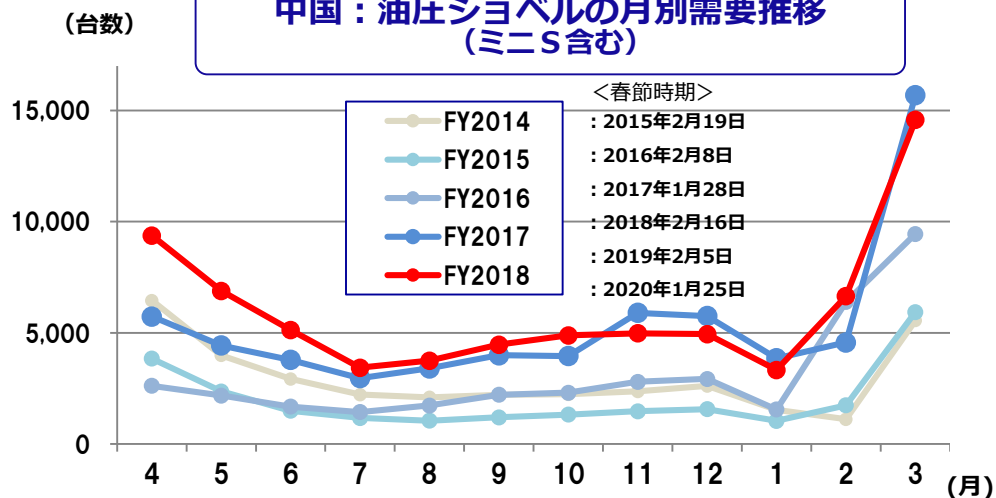
主要7建機 四半期需要推移 (外資メカ)



KOMTRAX(中国) 月平均稼働時間推移

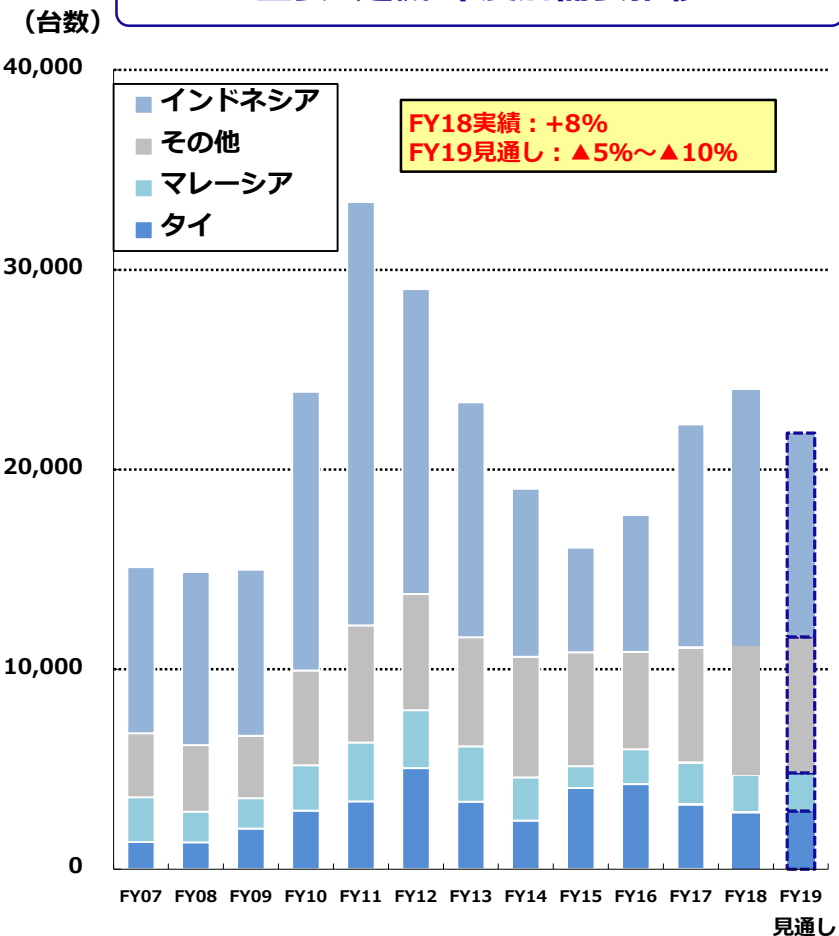


中国：油圧ショベルの月別需要推移 (ミニS含む)



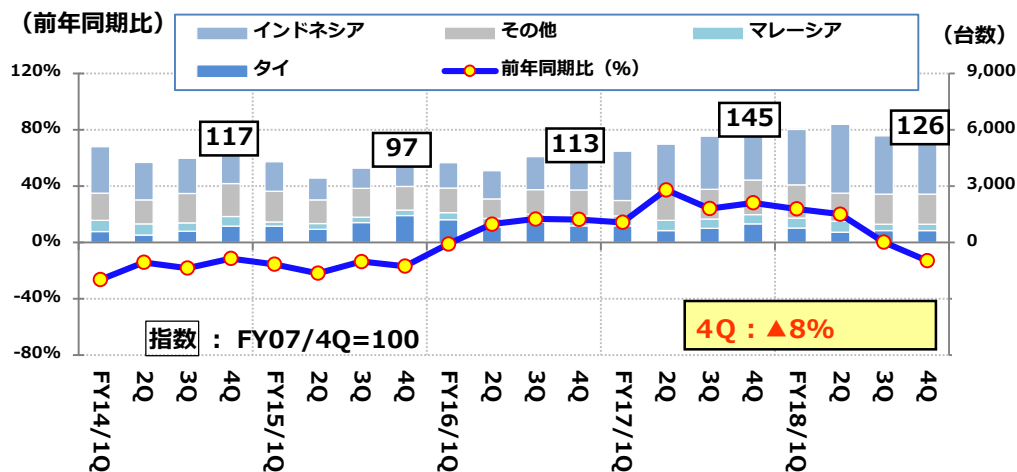
- ・ 2018年度の需要は、前年比+8%増加。
- ・ 最大市場のインドネシアで年度後半に伸び率が減速。
- ・ 2019年度は2018年度後半の状況が継続すると見ており、前年比▲5%～▲10%の見通し。

主要7建機 年度別需要推移

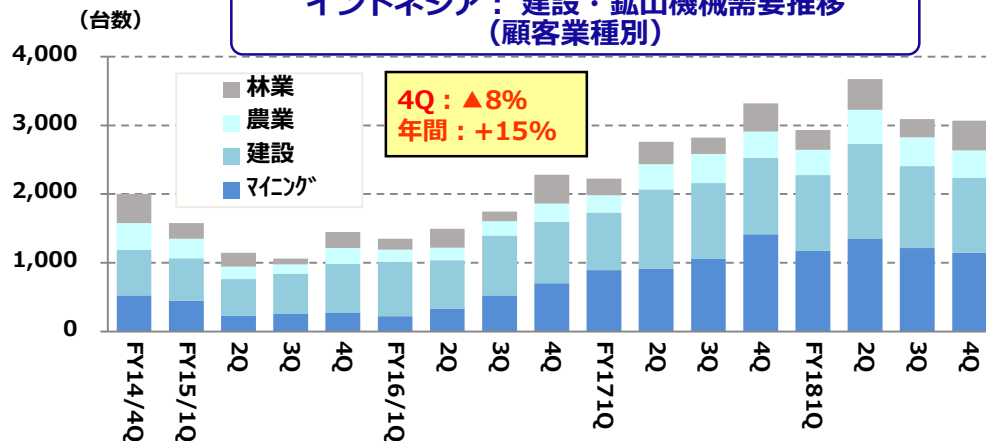


[出所] 主要7建機需要：コマツの推定

主要7建機 四半期需要推移



インドネシア：建設・鉱山機械需要推移 (顧客業種別)

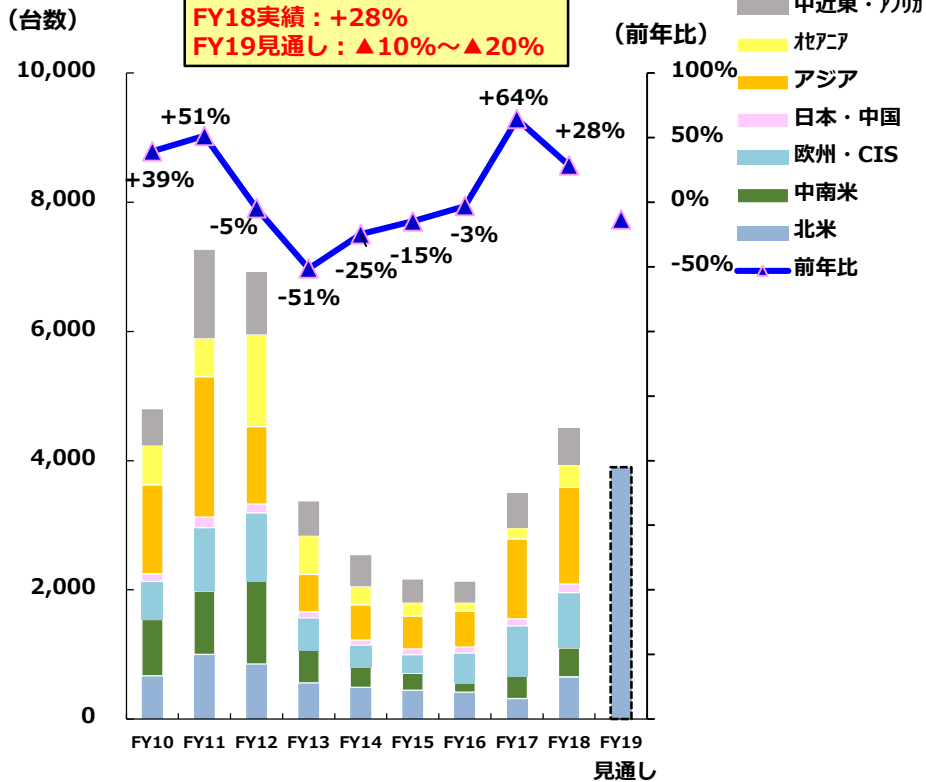


- ・2018年度の鉱山機械の世界需要は、前年比+28%増加。
- ・2019年度の需要は、主にインドネシアの需要減少で、前年比▲10%～▲20%の見通し。

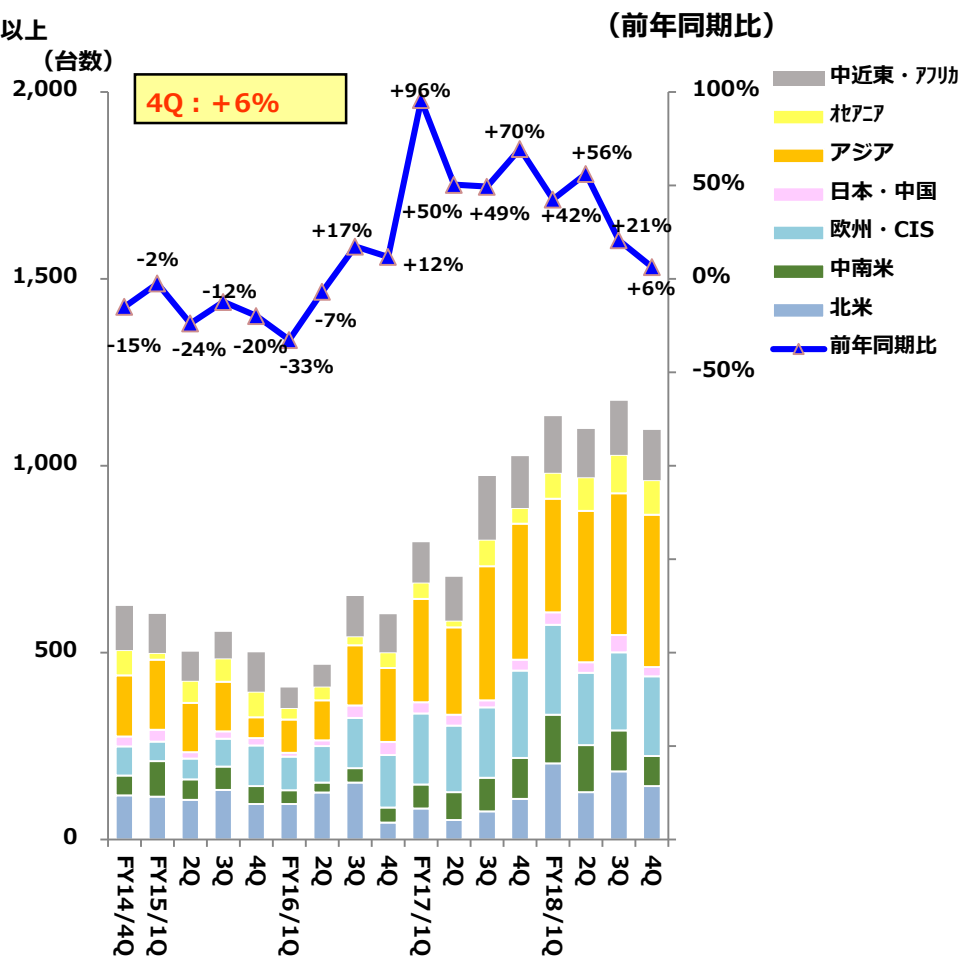
鉱山機械 年度別需要推移

鉱山機械 四半期別需要推移

- ・ダンプトラック：75 t (HD785) 以上 ・フルトラクタ：525HP (D375) 以上
- ・エクスカベータ：200 t (PC2000) 以上 ・ホイールローダ(機械駆動)：810HP (WA800) 以上
- ・モーターローダ：280HP (GD825) 以上

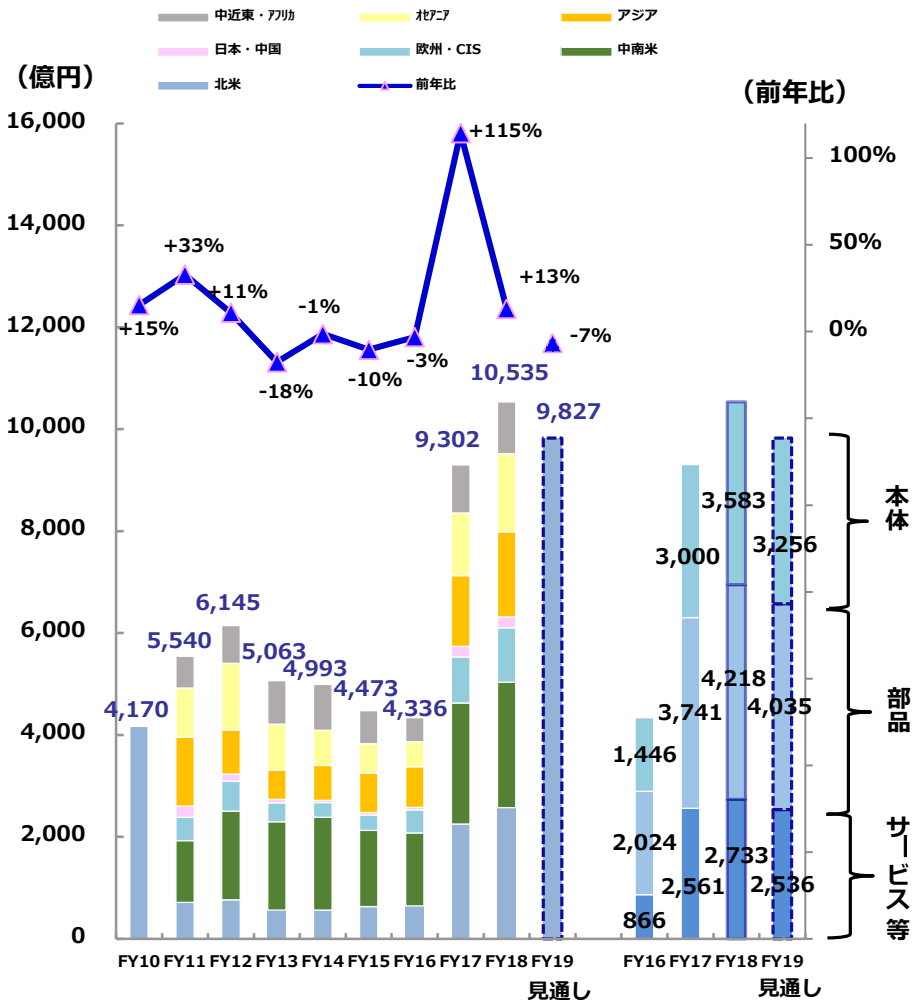


【出所】 コマツの推定

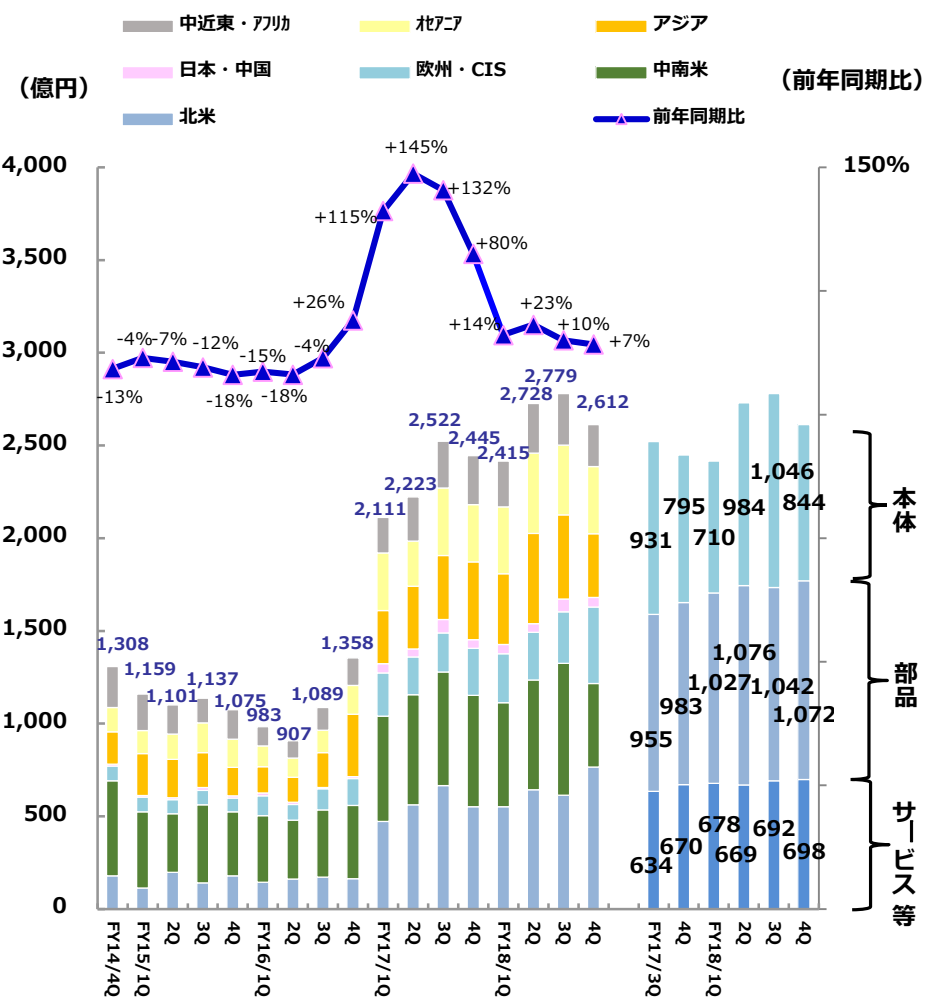


- ・ 2018年度の売上高は、前年比+13%増加の1兆535億円。
- ・ 2019年度の売上高は、主にインドネシアの売上減少で、前年比▲7%減少の9,827億円。

鉱山機械 年度別売上高 (部品・サービス等含む)

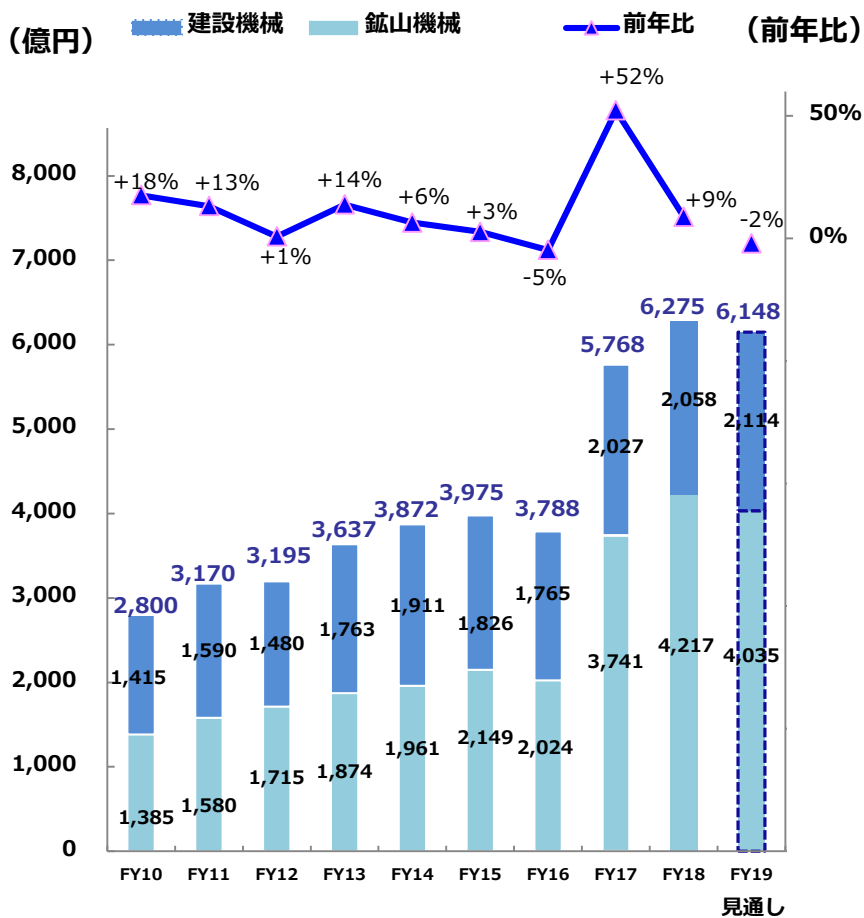


鉱山機械 四半期別売上高 (部品・サービス等含む)

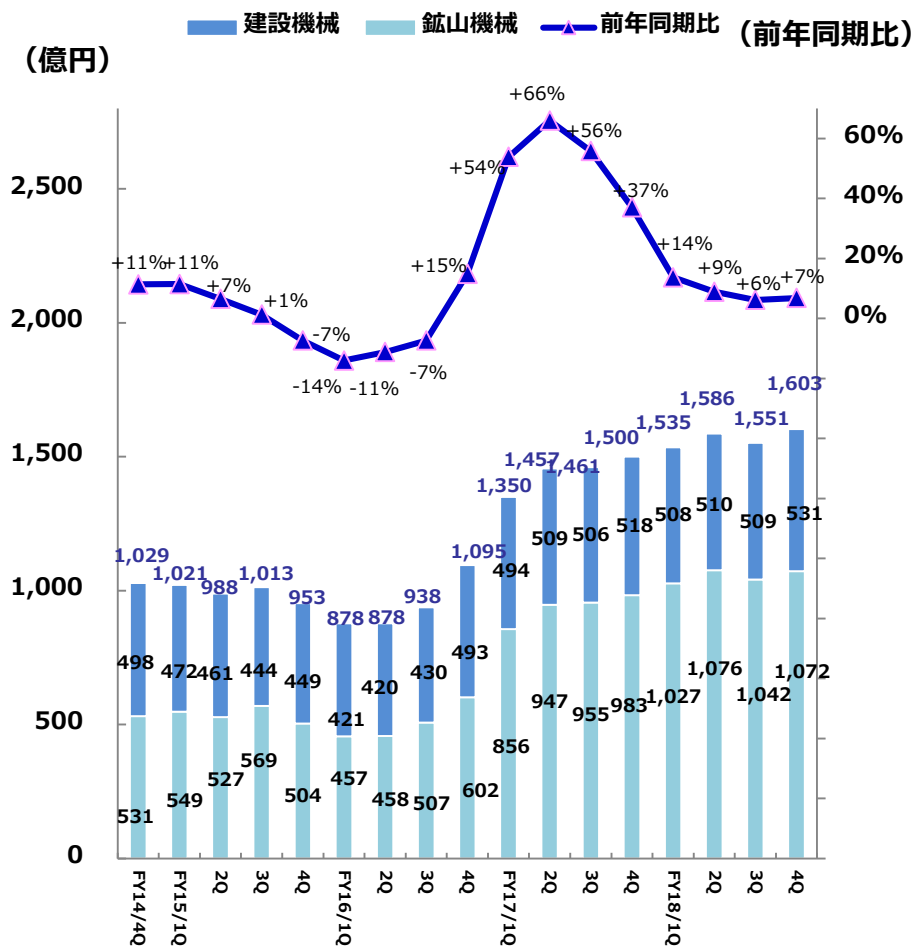


- ・ 2018年度の部品売上高は、前年比+9%増加の6,275億円。
- ・ 2019年度の売上高は、為替影響で前年比▲2%減少の6,148億円。

部品 年度別売上高



部品 四半期別売上高



設備投資・研究開発費・固定費ともに成長分野への重点投資を織込み

- ・設備投資は、KMCの工場再編投資や、国内工場の労働力不足への対応等を実施。
- ・研究開発費は、無人化・自動化や分野別・地域別商品、キーコンポーネント等の次世代商品開発に重点投資。
- ・固定費は、成長分野および継続的なICTによる業務改革などの先行投資により増加。

生産設備等*の投資 および減価償却費

研究開発費

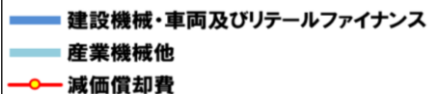
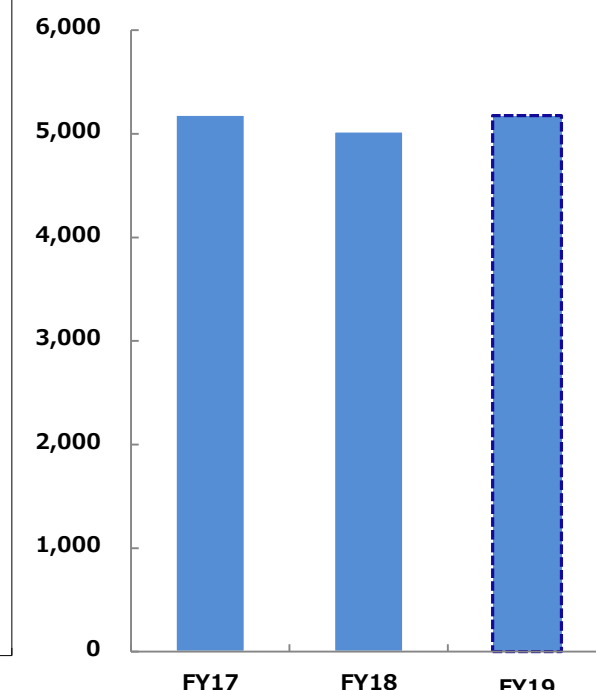
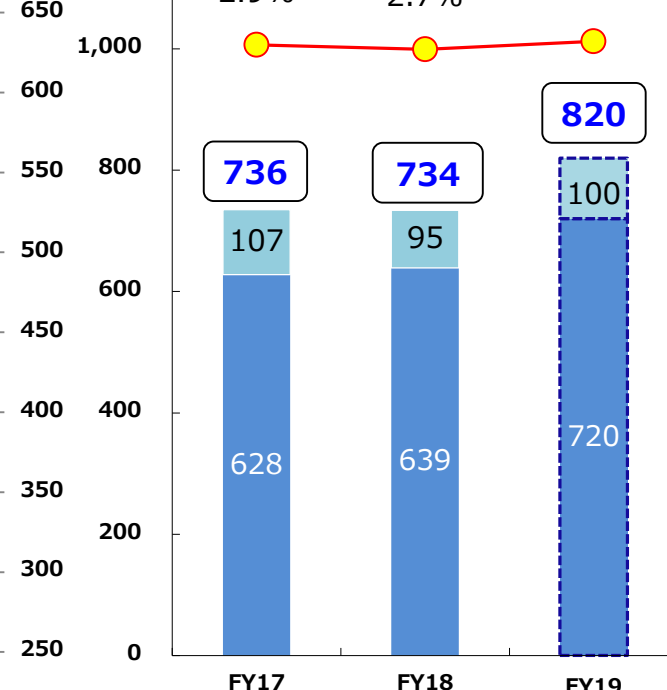
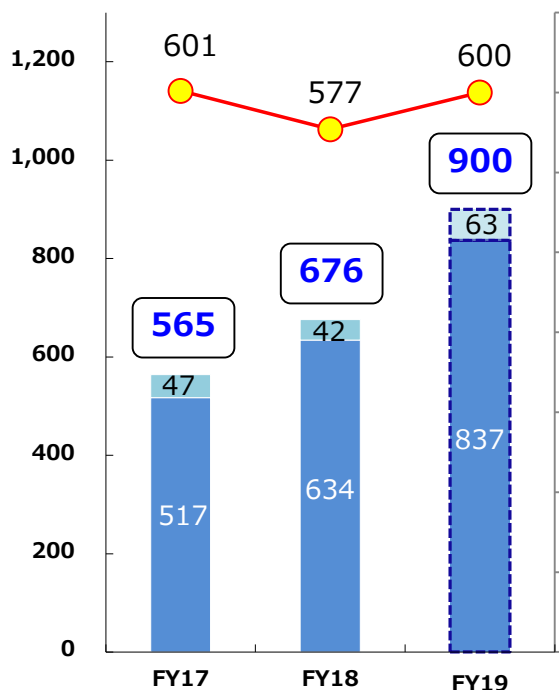
固定費

(億円)

* レンタル資産投資は含まず

(億円)

(億円)





【業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項】

前述の将来の業績予想に関する予想、計画、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績は様々な要因の変化により、本資料の予想、計画、見通しとは大きく異なることがありうることをあらかじめご理解ください。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、および国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが考えられます。

Ⅲ. 中期経営計画

中期経営計画 (2019年度～2021年度)

DANTOTSU Value
FORWARD Together for Sustainable Growth

2019年4月26日

コマツ

代表取締役社長（兼）CEO

小川 啓之

中期経営計画

(2019年度～2021年度)

DANTOTSU Value

FORWARD Together for Sustainable Growth

世界の現場を、「ダントツ」でつなぐ

今、世界は、地球規模で大きく変わり始めています。
社会やお客さまが何に困り、何を必要としているのか。

私たちは、今、何をすべきなのか。

それは、私たちの強みである圧倒的な商品・サービス・ソリューションを進化させ、
お客さま、代理店、パートナー、地域社会、そして私たちすべての現場を
ダントツでつなぐことで、持続的成長を目指すことです。

「ダントツ」で世界を変える、私たちが変える。

それがコマツのダントツバリューです。

世界の多極化や気候変動への意識の高まり等、外部環境が変化している。持続的成長を実現するために、需要変動に左右されない成長戦略が必要。

外部環境とESG課題の変化

<政治・経済>

- 多極化する世界
- 保護主義の台頭
- 新興国の経済成長

<技術>

- IoT/AI/ビッグデータの更なる浸透
- EV化・自動化の進展

<環境・エネルギー>

- 気候変動
- エネルギー・食料・水需要増加
- 脱炭素化・再生可能エネルギー

<社会・価値観>

- 先進国でのダイバーシティ加速
- 労働人口の減少
- シェアリングによる循環型社会の実現
- 安全・快適の追求、ニーズの高まり

持続可能な社会の実現への期待

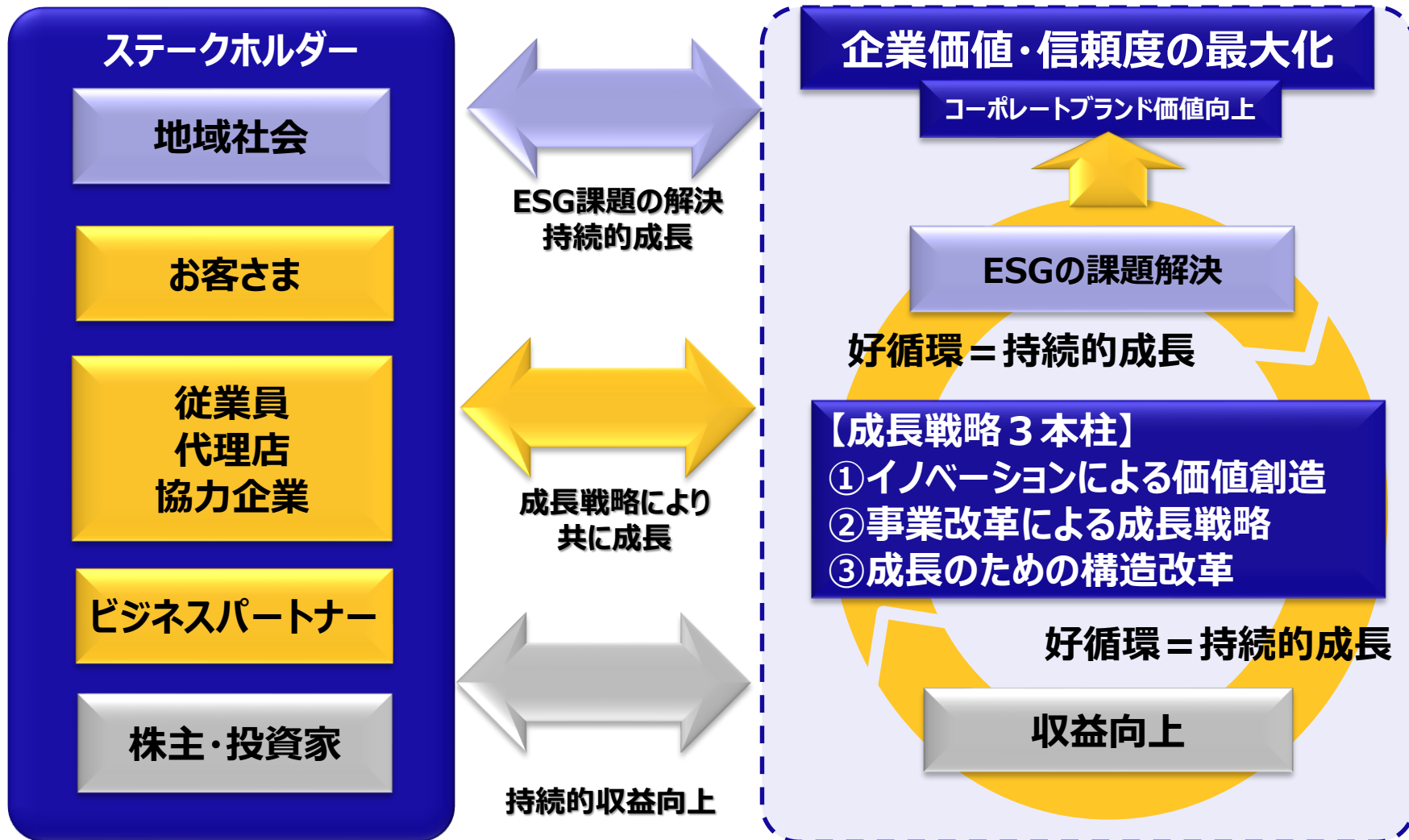
成長戦略における課題

- ① 本業の成長戦略を通じたESG課題解決
- ② 外部環境変化や需要変動に左右されない収益構造による持続的成長

成長戦略3本柱であるイノベーションによる価値創造・事業改革による成長戦略・成長のための構造改革により、収益向上とESG課題の解決の好循環で持続的成長をはかり、企業価値最大化を目指す。

「社会やステークホルダーからの期待」

「コマツの「経営の基本」を実現する成長戦略」



「経営の基本」である企業価値 = 信頼度を最大化するため、持続可能な成長を目指す。当中期経営計画においては、目指すべき姿へのロードマップに基づいて、バックカスティングで成長戦略・経営目標を策定。

経営の基本

「品質と信頼性」を追求し、「企業価値」である、我々を取り巻く社会と全てのステークホルダーからの信頼度の総和を最大化する。

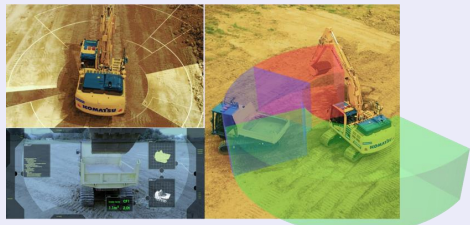


「2021年」
100周年 その先へ

*KMCは、Komatsu Mining Corp. (旧ジョイ・グローバル社) の略称。

コマツを取り巻く外部環境や課題に対し、成長戦略3本柱 ①イノベーションによる価値創造、②事業改革による成長戦略、③成長のための構造改革を推進し、持続的な成長を目指す。

イノベーションによる価値創造 ◆最適化プラットフォームとソリューションビジネス戦略の進化



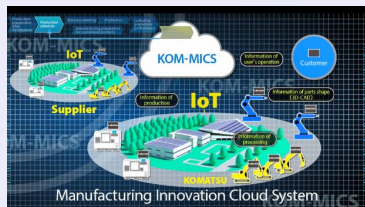
- * スマートコンストラクション/無人ダンプトラック運行システム (AHS) /プラットフォーム (ランドログ、IntelliMine)
- ◆ 建設・鉱山機械・ユーティリティの自動化・自律化、電動化、遠隔操作化
- ◆ 農林業のスマート化推進

事業改革による成長戦略



- ◆ KMC統合による相乗効果と成長戦略
- ◆ バリューチェーン改革/アフターマーケット再定義
 - * IoT/AI予測技術による予知保全、号機管理によるライフサイクルサポート
 - * ロジスティクス改革、* 次世代キーコンポーネント
- ◆ 次世代KOMTRAX
- ◆ 砕石・セメント、農林業等 分野別強化
- ◆ アジアダントツNo1、インド・アフリカ 成長市場への取り組み
- ◆ 産機事業改革 (建機事業とのシナジー拡大、コア技術による成長)

成長のための構造改革



- ◆ ICT・IoTによる業務改革
- ◆ 開発体制の構造改革
 - * モデルベース開発
 - * オープンイノベーション
- ◆ つながる工場、地球・作業環境負荷ゼロ工場
- ◆ グローバル人材育成

これまで取り組んできた「ダントツ商品・ダントツサービス・ダントツソリューション」を、更に進化・レベルアップし、スピードを上げて、顧客価値創造を通じたESG課題の解決と収益向上＝「ダントツバリュー」を目指す。

ダントツバリュー（顧客価値創造を通じたESG課題の解決と収益向上）

安全で生産性の高いスマートでクリーンな未来の現場

〔施工の高度化〕施工の安全性と生産性の追求

◆最適化プラットフォームとソリューションの進化

SMART CONSTRUCTION AHS/IAHV



LANDLOG IntelliMine

レベルアップ
スピードアップ

〔稼働の高度化〕稼働の見える化の追求

- ◆IoT/AI予測技術による予知保全
- ◆号機管理によるライフサイクルサポート
- ◆次世代KOMTRAX

次世代

KOMTRAX

ダントツソリューション

進化

〔製品の高度化〕高品質、高付加価値の追求

◆自動化・自律化、電動化、遠隔操作化



ICT建機 電動ショベル バッテリーLHD

ダントツサービス

従来のレベル、スピード

ダントツ商品

バリューチェーンの拡大

価値

モノ（建設機械の自動化・高度化）とコト（施工オペレーションの最適化）で施工のデジタルトランスフォーメーションを実現し、安全で生産性の高いスマートでクリーンな未来の現場を実現する。

安全で生産性の高いスマートでクリーンな未来の現場

レベル5
施工の最適化

レベル4
施工計画の自動化

レベル3
施工計画の3D化

レベル2
地形データの3D化

レベル1
設計データの3D化

コト【施工オペレーションの最適化レベル】

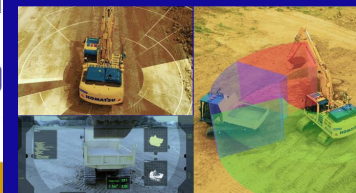
従来
施工



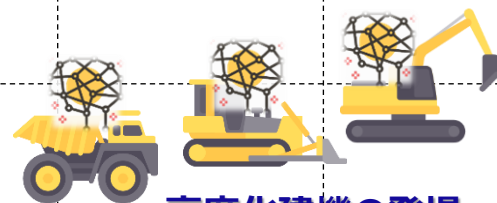
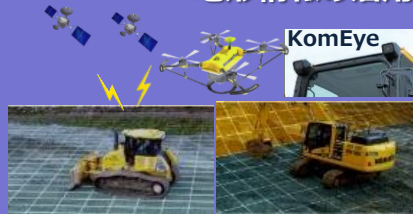
施工のデジタルトランスフォーメーション



日々最適な施工計画から、日々のタスクが自動作成。現場にある建機と協調自律化



情報化施工 進捗の見える化
ICT施工・建機 地形情報の活用



高度化建機の登場

モノ【機械の自動化・自律化レベル】

レベル1
運転支援
限定

レベル2
運転支援
範囲拡大

レベル3
高度化
単独自動

レベル4
高度化
協調自律

レベル5
高度化
判断自律

気候変動に対応した環境負荷低減や安全に配慮した高品質・高能率な商品・サービス・ソリューションの提供などの本業を通じてESG課題の解決を図る。

CSR重点分野	成長戦略3本柱によるESG課題の解決	SDGsとの関係
<p>生活を豊かにする</p> <p>—社会が求める商品を提供する—</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 持続可能なインフラ整備と資源開発および循環型の地球環境保全（リマン・林業）に貢献する商品・サービス・ソリューションの提供 ➤ 自動化などのイノベーションを通じたバリューチェーン全体での生産性向上・効率化、安全確保、環境負荷低減（CO2排出削減、再生可能エネルギー比率） ➤ 技術と信頼性をもって、よりよい地球と未来を実現するダントツバリュー（顧客価値創造・最大化）の追求 	<p>産業技術革新 持続可能都市</p> <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> <p>11 住み続けられるまちづくりを</p> <p>気候変動</p> <p>13 気候変動に具体的な対策を</p> <p>協業</p> <p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>
<p>人を育てる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 生産性・技能レベル高く、多様な人材育成 ➤ 持続可能な現場の実現を支援するダイバーシティ・グローバル人材の強化と育成 ➤ バリューチェーン横断型人材の育成 	<p>経済発展</p> <p>8 働きがいも経済成長も</p>
<p>社会とともに発展する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ステークホルダーとの協業による社会的課題の解決 ➤ コーポレートガバナンス・コンプライアンス・人権リスク対応の徹底などの責任ある企業行動 	<p>持続可能都市 協業</p> <p>11 住み続けられるまちづくりを</p> <p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>

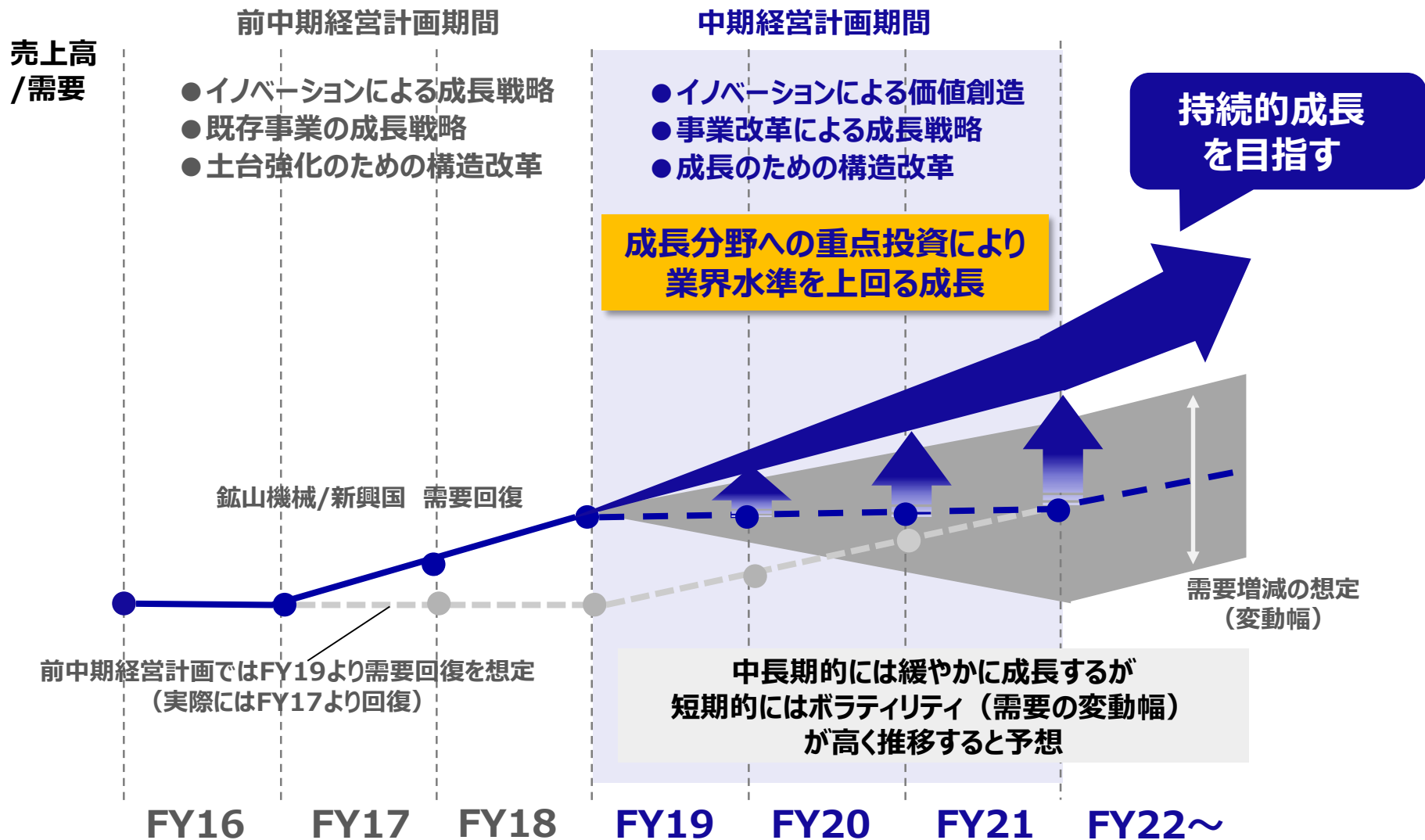
更なる情報開示の推進

TCFD*賛同表明
(2019年4月)

統合報告書（新・コマツレポート）
(2019年9月発行予定)

*気候関連財務情報開示タスクフォース

成長戦略3本柱へ、費用対効果と戦略上の価値を見極めながら、成長分野への重点投資を優先的に行い、業界水準を上回る成長を目指す。



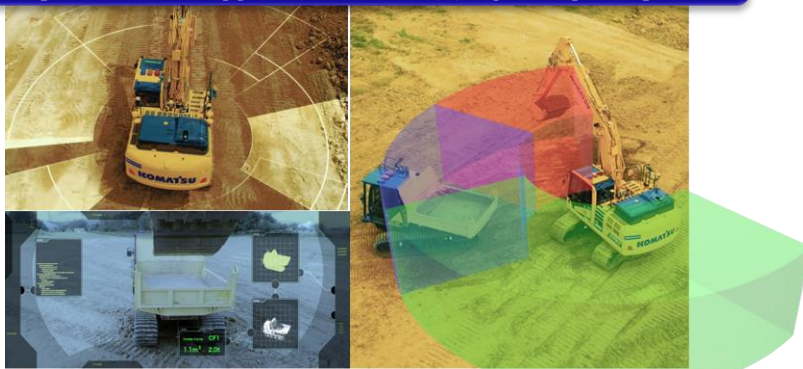
業界トップレベルの成長性、収益性、効率性、健全性を目指すことに加え、新たにESGの経営指標を設定。成長戦略への重点投資を優先しながら、安定的な配当の継続に努め、連結配当性向40%以上とする。

	経営指標	経営目標
成長性	<ul style="list-style-type: none"> 売上高成長率 	<ul style="list-style-type: none"> 業界水準を超える成長率
収益性	<ul style="list-style-type: none"> 営業利益率 	<ul style="list-style-type: none"> 業界トップレベルの営業利益率
効率性	<ul style="list-style-type: none"> ROE 	<ul style="list-style-type: none"> ROE 10%以上
健全性	<ul style="list-style-type: none"> ネットD/Eレシオ 	<ul style="list-style-type: none"> 業界トップレベルの財務体質
リテール ファイナンス 事業	<ul style="list-style-type: none"> ROA ネットD/Eレシオ 	<ul style="list-style-type: none"> ROA 1.5% – 2.0% ネットD/Eレシオ 5倍以下
【新設】ESG	<ul style="list-style-type: none"> 環境負荷低減 外部評価 	<ul style="list-style-type: none"> 環境負荷低減 CO₂排出削減：2030年50%減（2010年比） 再生可能エネルギー使用率：2030年50% 外部評価：DJSI*選定（ワールド、アジアパシフィック） CDP** Aリスト選定（気候変動、水リスク）等
株主 還元	<ul style="list-style-type: none"> 配当性向 	<ul style="list-style-type: none"> 成長への投資を主体としながら、株主還元（自社株買いを含む）とのバランスをとる。 連結配当性向を40%以上とする。

*ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インディシーズ：米国S&Pダウ・ジョーンズ社とスイスのロベコ・サム社によるSRI指標。

**企業や政府が温室効果ガス排出量を削減し、水資源や森林を保護することを推進する国際的な非営利団体

未来の建機 (自動化・自律化、電動化、遠隔操作化)



最適化プラットフォーム/ソリューションビジネス (環境負荷低減、安全・生産性向上)

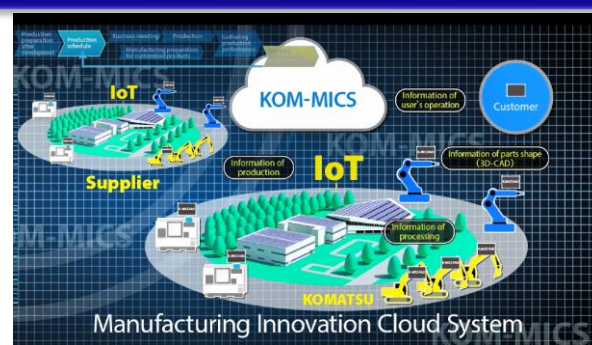


農林業のスマート化推進 (循環型の地球環境保全)



ICTを使ったスマート林業 植林分野への展開

未来の工場 (つながる工場、地球・作業環境負荷ゼロ工場)

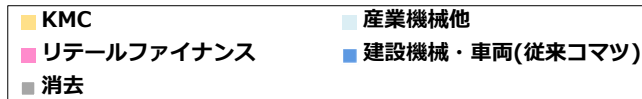


【業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項】

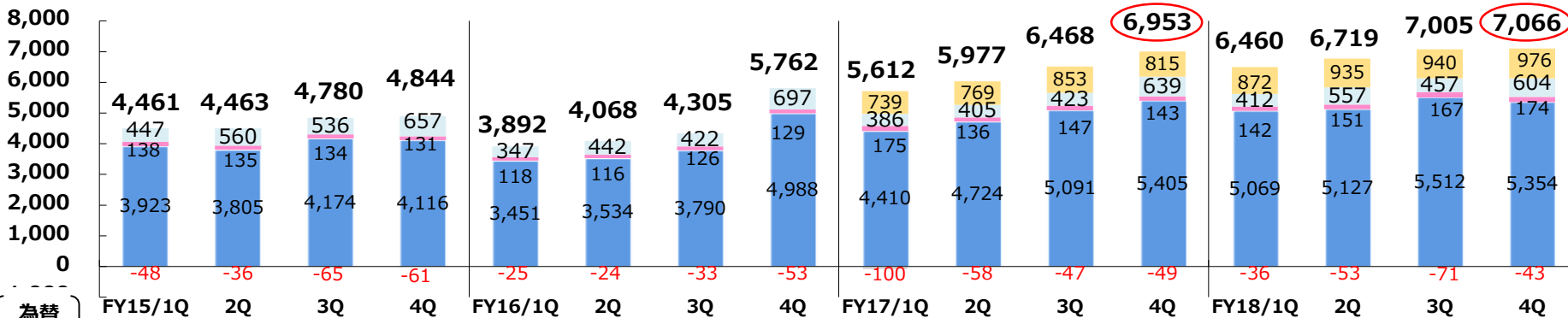
前述の将来の業績予想に関する予想、計画、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績は様々な要因の変化により、本資料の予想、計画、見通しとは大きく異なることがあります。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、および国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが考えられます。

参考資料

連結売上高 (FY15~)



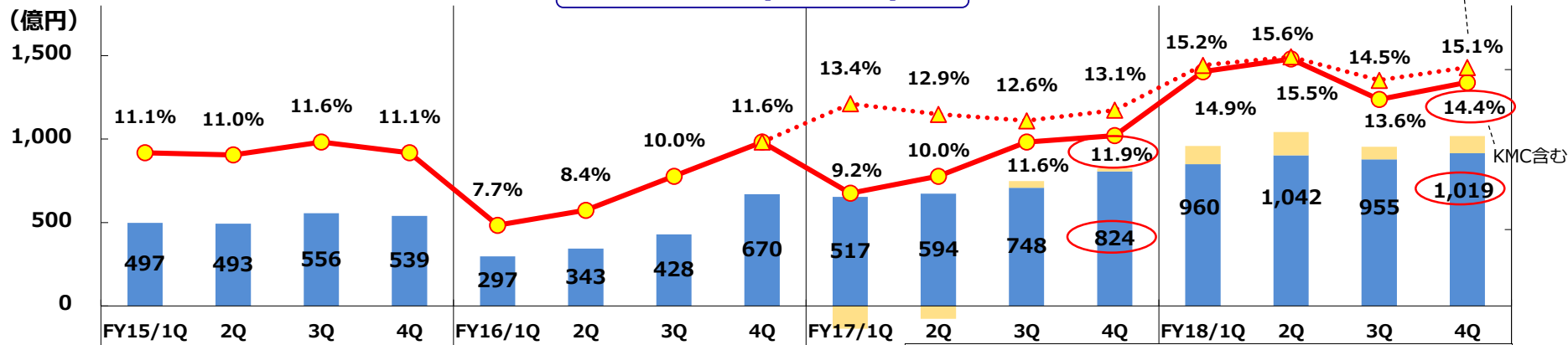
(億円)



為替
レート

	15/1Q	15/2Q	15/3Q	15/4Q	16/1Q	16/2Q	16/3Q	16/4Q	17/1Q	17/2Q	17/3Q	17/4Q	18/1Q	18/2Q	18/3Q	18/4Q
¥/USD	121.3	122.6	121.2	118.0	109.8	102.9	106.9	114.7	111.2	110.9	113.0	109.6	108.2	111.2	113.5	109.4
¥/EUR	133.0	136.2	132.3	128.0	124.3	114.6	116.7	121.4	121.6	129.9	133.2	133.7	130.1	129.6	129.6	124.7
¥/RMB	19.6	19.5	19.0	17.9	16.9	15.4	15.7	16.7	16.3	16.6	17.0	17.2	17.1	16.4	16.4	16.2

営業利益 (FY15~)

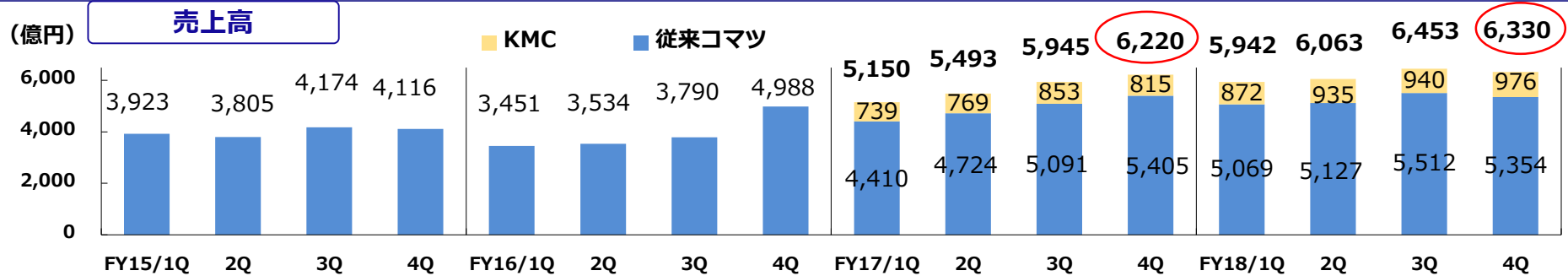


2017年度のセグメント利益については、会計基準変更に伴う組替表示(退職給付費用)をしている。

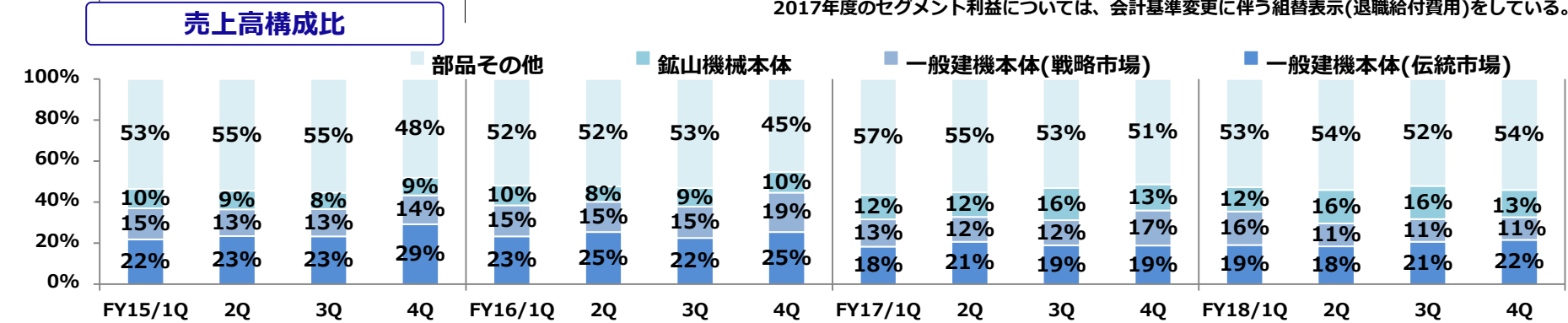
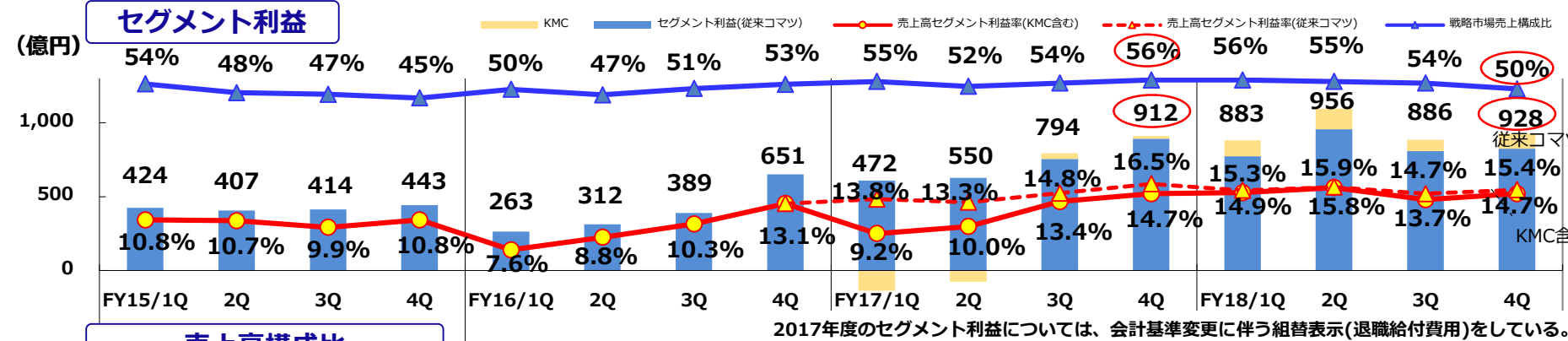
組替額は、FY17/1Q:▲7億円、2Q:▲7億円、3Q:▲7億円、4Q:▲9億円



<建設機械・車両> 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移

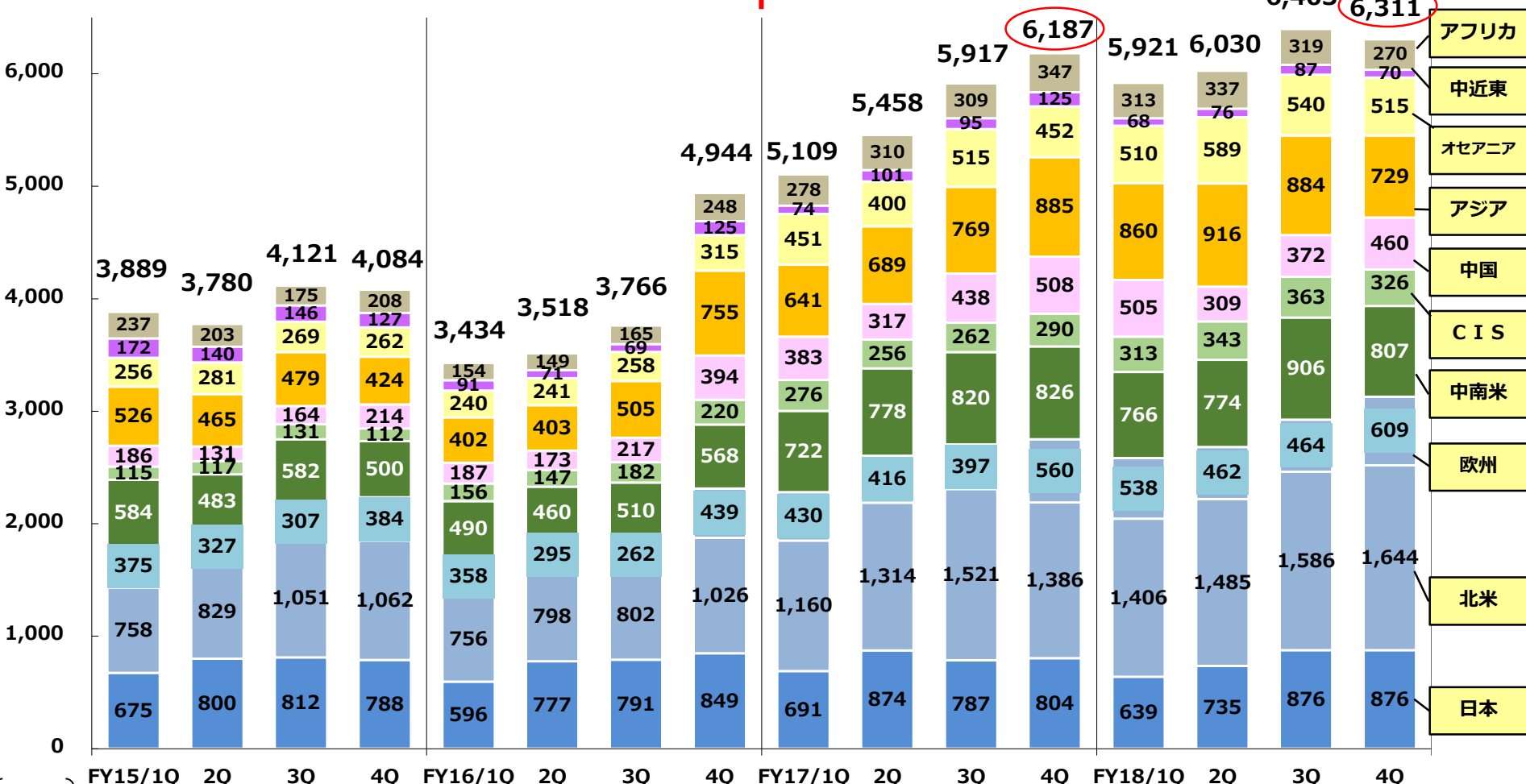


	15/1Q	15/2Q	15/3Q	15/4Q	16/1Q	16/2Q	16/3Q	16/4Q	17/1Q	17/2Q	17/3Q	17/4Q	18/1Q	18/2Q	18/3Q	18/4Q
¥/USD	121.3	122.6	121.2	118.0	109.8	102.9	106.9	114.7	111.2	110.9	113.0	109.6	108.2	111.2	113.5	109.4
¥/EUR	133.0	136.2	132.3	128.0	124.3	114.6	116.7	121.4	121.6	129.9	133.2	133.7	130.1	129.6	129.6	124.7
¥/RMB	19.6	19.5	19.0	17.9	16.9	15.4	15.7	16.7	16.3	16.6	17.0	17.2	17.1	16.4	16.4	16.2



(億円)

FY17/1QよりKMCを含む

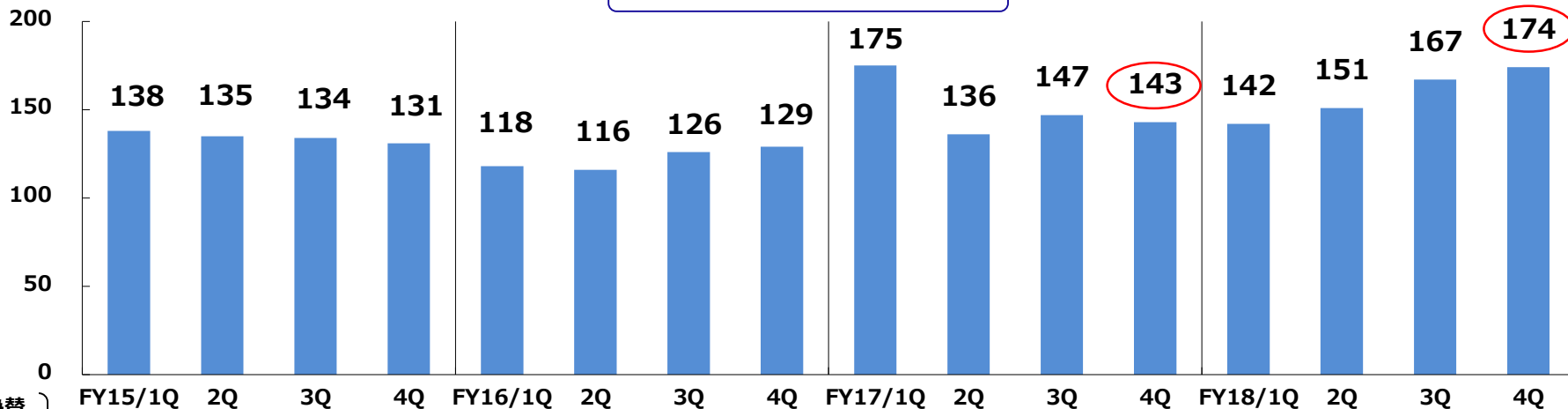


為替レート

	15/1Q	15/2Q	15/3Q	15/4Q	16/1Q	16/2Q	16/3Q	16/4Q	17/1Q	17/2Q	17/3Q	17/4Q	18/1Q	18/2Q	18/3Q	18/4Q
¥/USD	121.3	122.6	121.2	118.0	109.8	102.9	106.9	114.7	111.2	110.9	113.0	109.6	108.2	111.2	113.5	109.4
¥/EUR	133.0	136.2	132.3	128.0	124.3	114.6	116.7	121.4	121.6	129.9	133.2	133.7	130.1	129.6	129.6	124.7
¥/RMB	19.6	19.5	19.0	17.9	16.9	15.4	15.7	16.7	16.3	16.6	17.0	17.2	17.1	16.4	16.4	16.2

(億円)

売上高



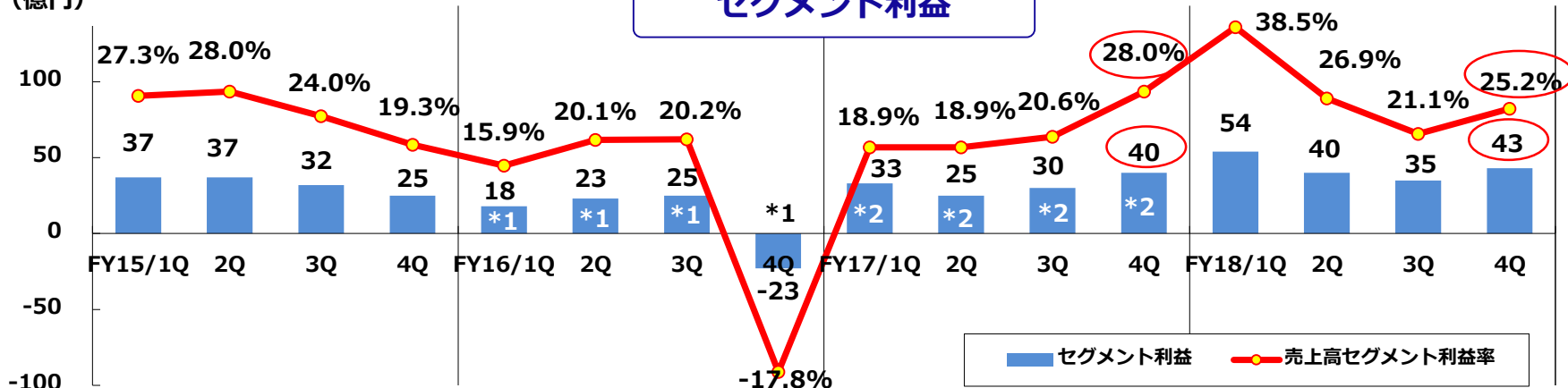
〔為替レート〕

¥/USD
¥/EUR
¥/RMB

	15/1Q	15/2Q	15/3Q	15/4Q	16/1Q	16/2Q	16/3Q	16/4Q	17/1Q	17/2Q	17/3Q	17/4Q	18/1Q	18/2Q	18/3Q	18/4Q
¥/USD	121.3	122.6	121.2	118.0	109.8	102.9	106.9	114.7	111.2	110.9	113.0	109.6	108.2	111.2	113.5	109.4
¥/EUR	133.0	136.2	132.3	128.0	124.3	114.6	116.7	121.4	121.6	129.9	133.2	133.7	130.1	129.6	129.6	124.7
¥/RMB	19.6	19.5	19.0	17.9	16.9	15.4	15.7	16.7	16.3	16.6	17.0	17.2	17.1	16.4	16.4	16.2

(億円)

セグメント利益

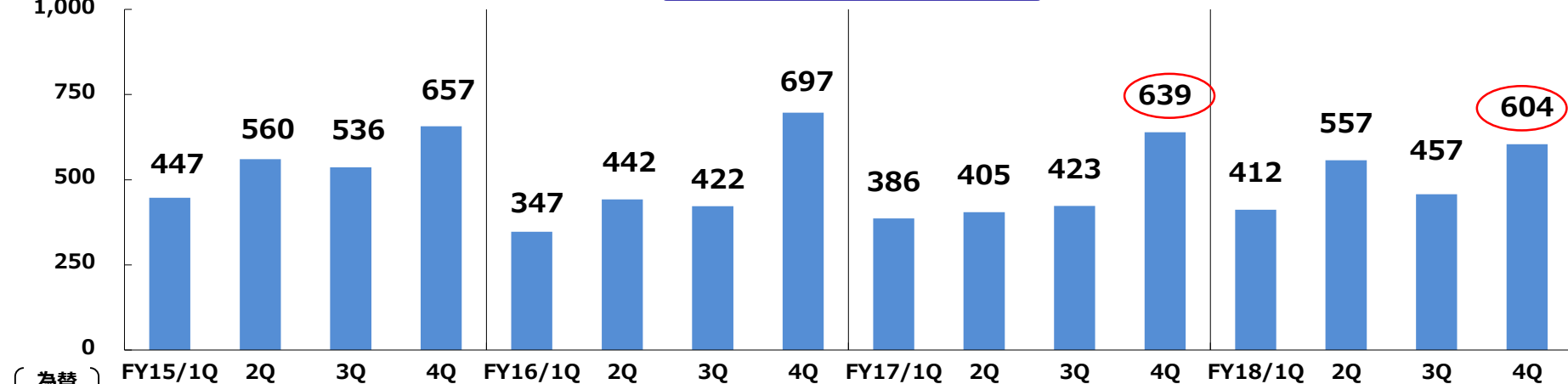


*1 中国の債権に係る引当金の計上を含む (FY16/1Q:▲10億円、2Q:▲5億円、3Q:▲2億円、4Q:▲49億円)

*2 2017年度の数値は組替表示しております(詳細は3ページを参照)。

(億円)
1,000

売上高

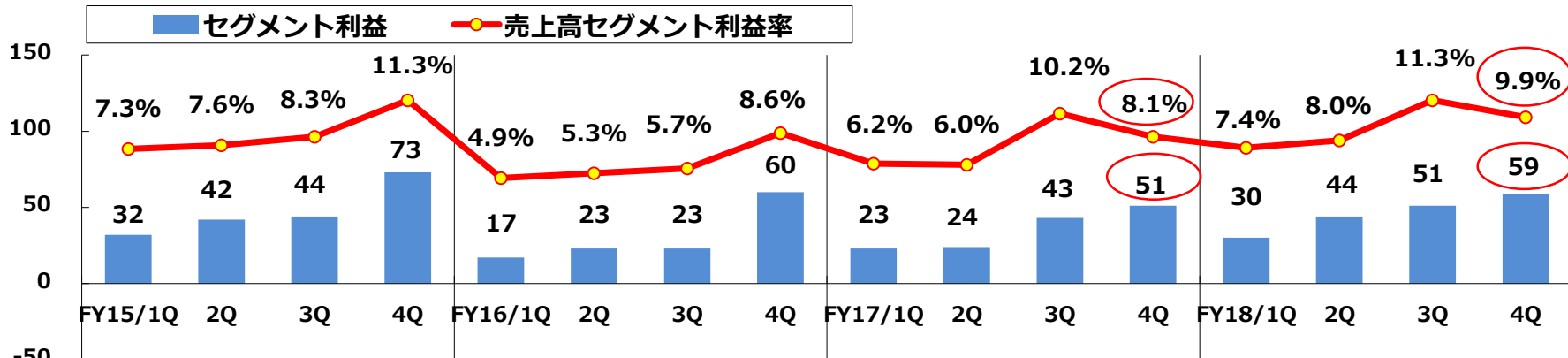


〔為替
レート〕

	15/1Q	15/2Q	15/3Q	15/4Q	16/1Q	16/2Q	16/3Q	16/4Q	17/1Q	17/2Q	17/3Q	17/4Q	18/1Q	18/2Q	18/3Q	18/4Q
¥/USD	121.3	122.6	121.2	118.0	109.8	102.9	106.9	114.7	111.2	110.9	113.0	109.6	108.2	111.2	113.5	109.4
¥/EUR	133.0	136.2	132.3	128.0	124.3	114.6	116.7	121.4	121.6	129.9	133.2	133.7	130.1	129.6	129.6	124.7
¥/RMB	19.6	19.5	19.0	17.9	16.9	15.4	15.7	16.7	16.3	16.6	17.0	17.2	17.1	16.4	16.4	16.2

セグメント利益

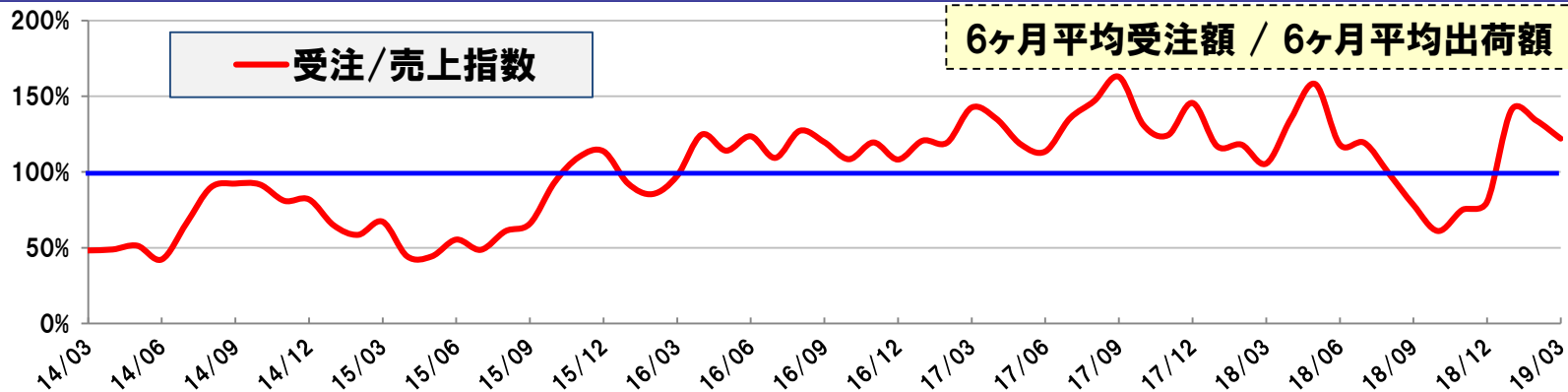
(億円)



2017年度の数値は組替表示しております(詳細は3ページを参照)。

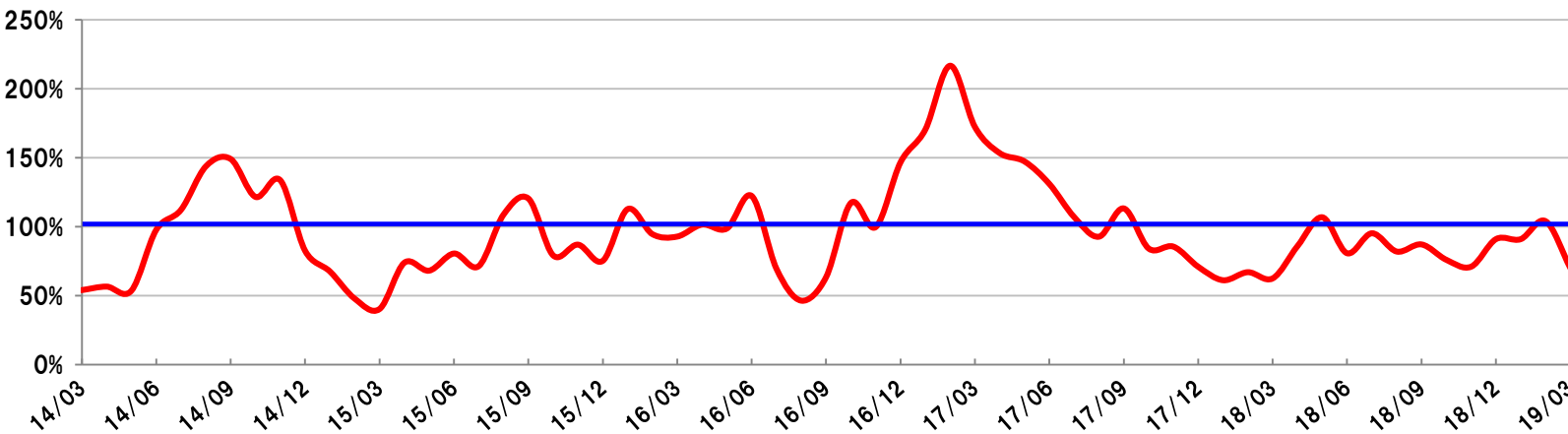
**コマツアメリカ
（マイニング）**

730E, 830E
860E
930E, 960E
980E



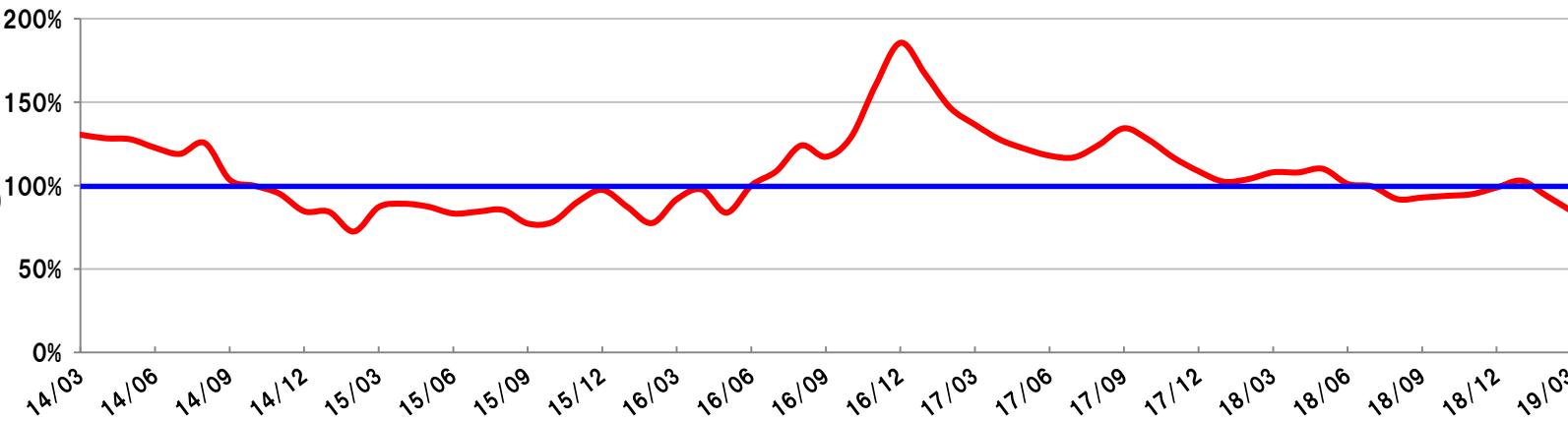
**コマツドイツ
（マイニング）**

PC3000, PC4000
PC5500, PC7000
PC8000



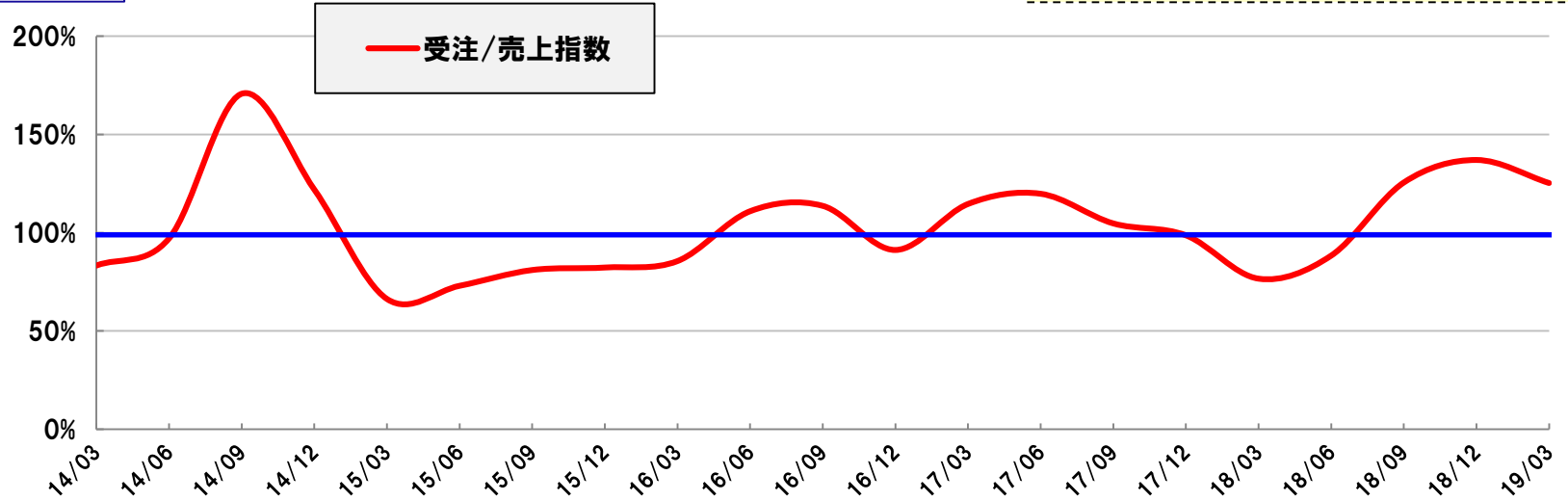
**コマツ単独
（マイニング）**

HD785, HD1500
PC2000, PC3000
PC4000
WA800 up
D375A up
GD825A up

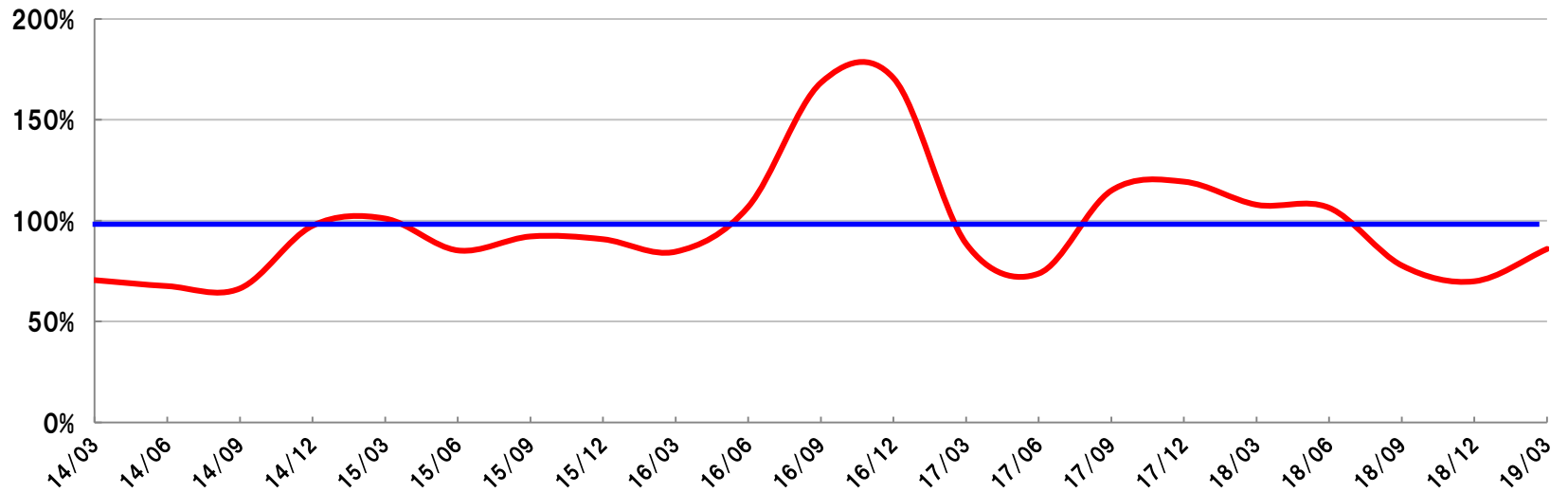


コマツ産機

6ヶ月平均受注額 / 6ヶ月平均出荷額



**コマツNTC
(除くワイヤーソー)**



- ・ 連結売上高は前年同期比+1.6%増収の7,066億円。
- ・ 営業利益は前年同期比+23.6%増益の1,019億円。売上高営業利益率は同+2.5ポイント増の14.4%。
- ・ 純利益は前年同期比+74.9%増益の722億円。

2017年度の利益は組替表示しています(詳細は3ページを参照)。

金額単位：億円	2018年1-3月			2019年1-3月			前年同期比	
	¥109.6/USD ¥133.7/EUR ¥17.2/RMB	従来コマツ *1	KMC	¥109.4/USD ¥124.7/EUR ¥16.2/RMB	従来コマツ *1	KMC	増減	増減率
連結売上高	6,953	6,137	815	7,066	6,089	976	+113	+1.6%
セグメント利益	1,012	993	*2 18	1,031	928	*2 102	+18	+1.9%
その他の営業収益(▲費用)	▲187	▲186	▲1	▲11	▲11	0	+175	-
営業利益	824	806	*2 17	1,019	916	*2 102	+194	+23.6%
売上高営業利益率	11.9%	13.1%	2.2%	14.4%	15.1%	10.5%	+2.5ポイント	-
その他の収益(▲費用)	▲60			▲24			+35	-
税引前純利益	764			994			+230	+30.1%
当社株主に帰属する当期純利益	413			722			+309	+74.9%

*1 KMCを除いたコマツの従来ベースの業績を示している。

*2 KMCのセグメント利益および営業利益には右記の一時費用の影響が含まれている。

	2018年1-3月	2019年1-3月
PPAによる償却費 ※	▲35億円	▲17億円
統合費用ほか	▲34億円	▲9億円
合計	▲70億円	▲27億円

※ PPAはPurchase Price Allocation(パーチェス・プライス・アロケーション)の略
資産・負債を公正価値評価/配分する手続き

2018年度 第4四半期(1-3月)の各セグメント売上高と利益

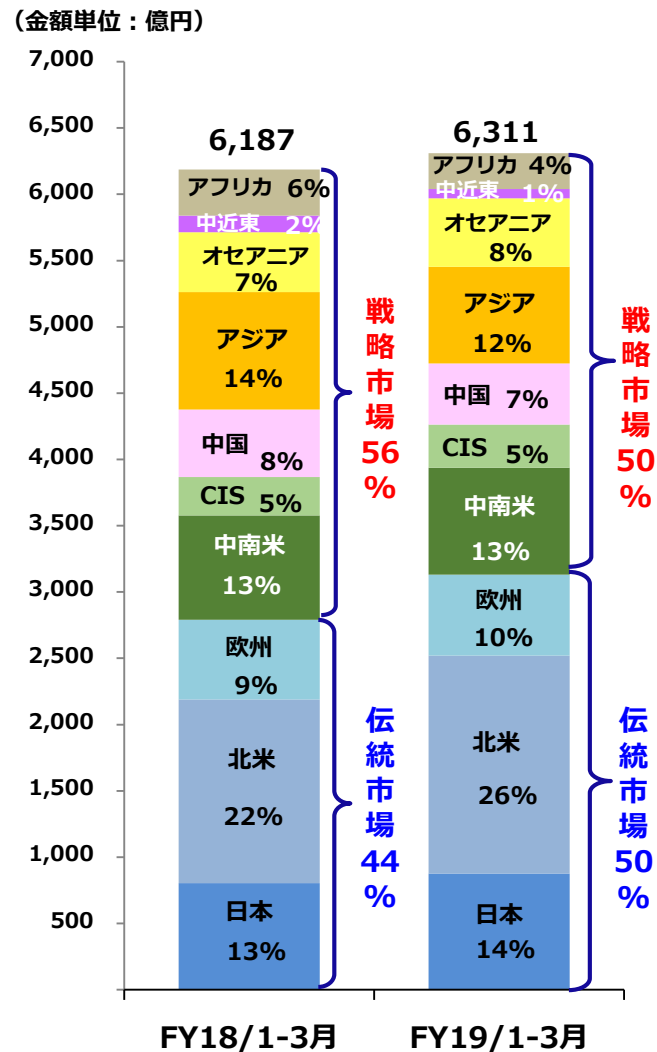
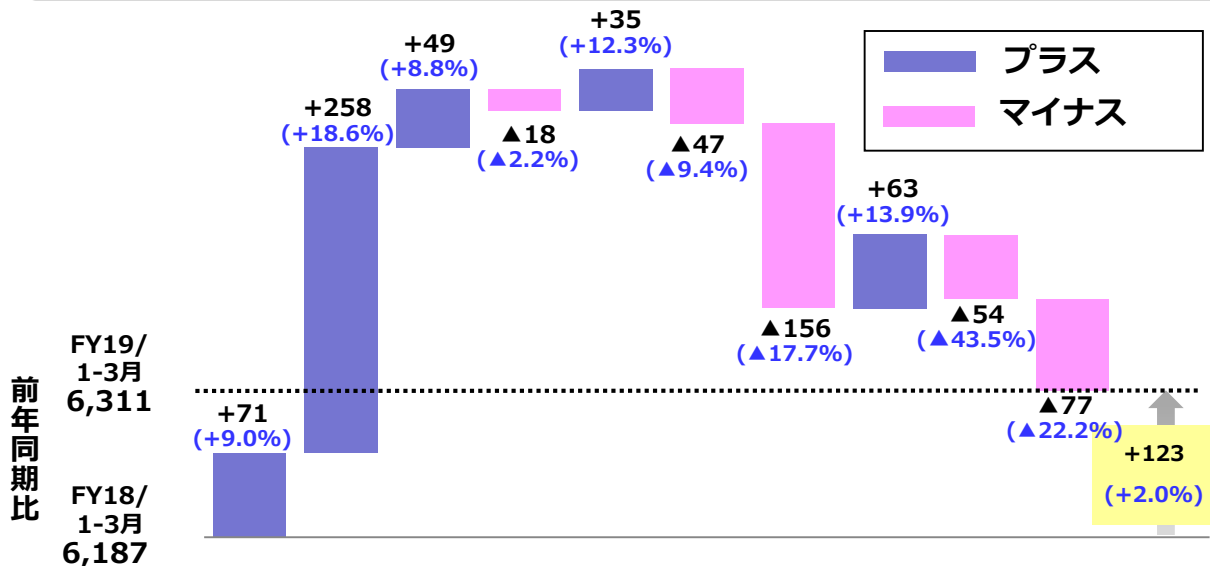
- ・建設機械・車両部門の売上高は+1.8%増収の6,330億円。セグメント利益は+1.7%増益の928億円。セグメント利益率は前年と変わらず14.7%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は+21.6%増収の174億円。セグメント利益は+9.3%増益の43億円。
- ・産業機械他部門の売上高は▲5.4%減収の604億円。セグメント利益は+14.6%増益の59億円。

2017年度の利益は組替表示しています(詳細は3ページを参照)。

% : 利益(▲損失)率 () : 外部顧客向け売上高

金額単位：億円	2018年1-3月			2019年1-3月			前年同期比	
		従来コマツ	KMC		従来コマツ	KMC	増減	増減率
売上高	6,953	6,137	815	7,066	6,089	976	+113	+1.6%
建設機械・車両	6,220 (6,187)	5,405 (5,371)	815 (815)	6,330 (6,311)	5,354 (5,334)	976 (976)	+110 (+123)	+1.8% (+2.0%)
リテールファイナンス	143 (128)	143 (128)	-	174 (155)	174 (155)	-	+30 (+27)	+21.6% (+21.2%)
産業機械他	639 (637)	639 (637)	-	604 (599)	604 (599)	-	▲34 (▲37)	▲5.4% (▲5.9%)
消去	▲49	▲49	-	▲43	▲43	-	+6	-
セグメント利益	14.6% 1,012	16.2% 993	2.3% 18	14.6% 1,031	15.2% 928	10.5% 102	+18	+1.9%
建設機械・車両	14.7% 912	16.5% 893	2.3% 18	14.7% 928	15.4% 825	10.5% 102	+15	+1.7%
リテールファイナンス	28.0% 40	28.0% 40	-	25.2% 43	25.2% 43	-	+3	+9.3%
産業機械他	8.1% 51	8.1% 51	-	9.9% 59	9.9% 59	-	+7	+14.6%
消去または全社	7	7	-	▲0	▲0	-	▲8	-

- ・外部顧客向け売上高は前年同期比+2.0%増収の6,311億円。
- ・アジア・アフリカ・中国等、戦略市場で売上が減少したものの、伝統市場での売上高が伸長。
- ・伝統市場の比率が50%に増加。



(億円)	日本	北米	欧州	中南米	CIS	中国	アジア	オセアニア	中近東	アフリカ	合計
従来コマツ	804	1,027	531	636	269	480	875	348	124	273	5,371
KMC	0	358	29	189	20	28	10	103	0	73	815
FY18/1-3月 (A)	804	1,386	560	826	290	508	885	452	125	347	6,187
従来コマツ	876	1,197	563	618	278	424	696	397	69	212	5,334
KMC	0	447	46	189	47	35	32	118	1	58	976
FY19/1-3月 (B)	876	1,644	609	807	326	460	729	515	70	270	6,311
増減 B-A	+71	+258	+49	▲18	+35	▲47	▲156	+63	▲54	▲77	+123

伝統市場

戦略市場

※ 為替影響を除くベースでプラスの地域